

令和4年度千代田学報告書

千代田区における教育医療福祉の
連携にもとづくヤングケアラー
支援体制構築に向けた実態調査

研究代表者 田口理恵

共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域

令和 5(2023)年 3 月 31 日

目次

I. 序章

1. 背景	1
2. 目的	2
3. 調査の概要	2
4. 研究組織	3
5. 成果の公表	3

II. 調査の概要

1. 調査対象	5
2. 調査方法	5
3. 倫理的配慮	6
4. 調査結果の要点	8
5. 総括	11
6. 本調査の限界	12

III. 調査結果

1. 小学生調査の結果	13
2. 中学生・高校生調査の結果	31
3. 教員調査の結果	47
4. ケアに対する意識調査の結果	60
資料	67

I. 序章

I. 序章

1. 背景

ヤングケアラーとは、家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートを行っている18歳未満の子どもを指す。ケアを必要とする家族がいる場合、子どもがケアに参加することは、その子どもの成長や家族の絆の強化につながるというポジティブな面も有する。しかしながら、子どもがケア責任を負わされることにより、友人との交流や学業が阻害されることが問題となっている。また、精神障害を持つ親の子を対象とした調査では、子どもが親の情緒的ケアを担わされ、心理的・身体的虐待を受けるケースが多いことも報告されている¹⁾。

ヤングケアラーの実態としては、全国の中学2年生におけるヤングケアラーの割合は5.7%²⁾、小学6年生における割合は6.5%³⁾であることが報告されている。また、「健康状態がよくない～あまりよくない」「遅刻や早退をたまにする～よくする」「授業中に寝てしまう」「宿題ができていない」「忘れ物が多い」という回答は、「家族の世話をしている」ケースがそれ以外の2倍前後であることが明らかとなり、家族の世話を担う子どもへの支援は、喫緊の課題であることが確認されている^{2),3)}。

一方、同調査^{2),3)}において、家族の世話について誰かに相談したことがある割合は2～3割にとどまり、その相手も家族、友人が大半を占め、学校関係者、専門職、行政への相談経験は極めて少ないことも報告されている。周囲が問題に気づけるサインとしては、遅刻・欠席の多さや、学業の停滞などが考えられることから、学校関係者が重要な支援の入り口になると期待されている。このため、従来子ども福祉の枠組みの中で行われてきたヤングケアラー支援の充実に向けては、障害福祉、医療と介護、教育の連携が肝要であり、令和3(2021)年3月には厚生労働省と文部科学省連携のもと「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」が発足し、ヤングケアラーへの支援の在り方について検討が行われている⁴⁾。

千代田区の総人口は、平成7(1995)年まで減少傾向であり、同年34,780人であったが、以降は増加に転じ、令和2(2020)年は66,680人となっている⁵⁾。年齢3区分別では、平成7(1995)年24,200人であった生産年齢人口(15～64歳)が、令和2(2020)年は46,517人となっており、その総人口に対する割合は70.1%と、東京都全体の65.7%に比して顕著に高くなっている⁵⁾。年少人口(0～14歳)の推移は、平成12(2000)年までは減少傾向にあったが、以降は増加に転じ、令和2年は8,976人となり、その割合は

13.5%と東京都全体の 11.5%を上回っている⁵⁾。このように千代田区では、全国の人口動態とは逆転した、生産年齢人口と年少人口の増加傾向が続いている。近年千代田区では、国の児童手当の支給対象外となっている住民についても独自に手当を支給するなど、手厚いサービスが展開されていることもあり、一層子育て世代の転入が進んでいる。世帯構成でも、全国的に核家族世帯が減少し、単独世帯が増加する中、平成 27 (2015) 年から令和 2 (2020) 年にかけて、千代田区では核家族世帯が増加しており、中でも「子あり」の核家族世帯が増加しているのは、千代田区に特徴的な変化であり⁵⁾、千代田区における子どもとその家族への支援の重要性は増している。

地価が高い千代田区に居住する子育て世帯の全体的な経済水準は高いが、地域のキーパーソンへのヒアリングでは、近年シングルマザー、シングルファザーが増加している感覚がある、との情報や、虐待や虐待予備軍にあたるケースが増加している感覚があるとの情報もあり、千代田区の子どもが置かれている状況も多様化していることが推測される。また、地域のつながりが希薄な千代田区においては、家族にケアが必要な状況が発生した際に、課題がより潜在化しやすいリスクも孕んでいる。

2. 目的

本調査は、千代田区の小・中・高等学校の児童・生徒における家族のケアを含む生活の実態、並びに小・中・高等学校教員等による支援の実態を明らかにし、千代田区における教育医療福祉の連携に基づくヤングケアラーの支援体制構築に向けた基礎資料を得ることを目的とし実施した。

3. 調査の概要

調査 1 【小学生調査】

千代田区立小学校 8 校の 5 年生約 500 人を対象とし、①普段の生活状況、②家族の世話の状況、③ヤングケアラーの認知と意見、について調査した。調査は Web 調査で行った。

調査 2 【中学生・高校生調査】

千代田区立中学校 2 校の 2 年生と千代田区立中等教育学校前期課程 2 年生、同後期課程 5 年生の約 560 人を対象とし、①普段の生活状況、②家族の世話の状況、③ヤングケアラーの認知と意見、について調査した。調査は Web 調査で行った。

調査3【教員調査】

千代田区立小学校8校、千代田区立中学校2校と千代田区立中等教育学校の教員並びにスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、計約330人を対象とし、①認知したヤングケアラーの状態、②ヤングケアラー支援の連携先機関の知識・認知、について調査した。調査はWeb調査で行った。

調査4【ケアに対する意識調査】

調査1～3の全対象者を対象に、ケアに対する意識を調査した。調査はWeb調査で、調査1～3と一体的に行った。

4. 研究組織

研究代表者

田口 理恵（共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域 教授）

研究担当者

久保 善子（共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域 准教授）

高橋 美保（同上 助手）

榎本 晃子（同上 助教）

清水 信輔（同上 専任講師）

研究協力者

内山 明莉（共立女子大学看護学部 4年生）

白鳥 愛夏（共立女子大学看護学部 4年生）

竹内 万結（共立女子大学看護学部 4年生）

丸山 萌実（共立女子大学看護学部 4年生）

5. 成果の公表

- ちよだコミュニティラボ・ライブ（2023年3月11日）にて発表を行った。

【引用文献】

- 1) 蔭山正子、他、精神疾患のある親をもつ子どもの体験と学校での相談状況：成人後の実態調査、日本公衆衛生学会、68（2）：131-143, 2021
- 2) 厚生労働省・文部科学省 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（実施主体：日本総合研究所），2021.
3. URL：https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf
(2023年3月12日閲覧)
- 3) 厚生労働省・文部科学省 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（実施主体：日本総合研究所），2022.
3. URL：
https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/2021_13332.pdf
(2023年3月12日閲覧)
- 4) 厚生労働省 ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム URL：<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/young-carer-pt.html> (2023年3月12日閲覧)
- 5) 千代田区 千代田区人口ビジョン 令和3年度 URL：
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/documents/28170/r3jinko-vision.pdf> (2023年3月12日閲覧)

II. 調査の概要

II. 調査の概要

1. 調査対象

【小学生調査】：千代田区立小学校 8 校の 5 年生約 500 人

【中学生・高校生調査】：千代田区立中学校 2 校の 2 年生と千代田区立中等教育学校前期課程 2 年生、同後期課程 5 年生の計約 560 人

【教員調査】：【小学生調査】【中学生・高校生調査】の対象校に勤務する教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの計約 330 名

2. 調査方法

(1) データ収集方法

- データ収集期間：2022年10月14日開始、10月31日回答期限
(但し、11月15日回答分まで受付)
- Googleフォームを用いた無記名のWebアンケート調査

【小学生調査】 【中学生・高校生調査】

- 区立校園長会時に、対象校の校長に向けて、千代田区教育委員会より、依頼書（資料④⑤）を用いて研究の目的、方法、倫理的配慮について説明いただいた。
- 保護者に向けては、依頼書（資料④⑤）を調査前に各学校から配布いただいた。
- 千代田区では全児童・生徒にタブレットが貸与されているため、ホームルーム等の時間に、これを用いて、アンケート調査を実施していただいた。児童・生徒へは、依頼書（資料④⑤）を用いて研究の目的、方法、倫理的配慮を説明いただいた。
- Webアンケートの最後には、本研究に協力するか否かを選択する質問項目を用意し、児童・生徒は、自由意思で協力するか否か決定できるようにした。

【教員調査】

- 区立校園長会時に、対象校の校長に向けて、千代田区教育委員会より、依頼書（資料⑥）を用いて研究の目的、方法、倫理的配慮について説明いただいた。
- 各学校において、教員とスクールカウンセラーに、依頼書（資料⑥）を配布いただき、自由意思にもとづきアンケートに回答いただいた。
- スクールソーシャルワーカーについては、千代田区教育委員会より、メールにて依頼書（資料⑥）を送付いただき、自由意思にもとづきアンケートに回答いただ

いた。

【ケアに関する意識調査】

- 【小学生調査】 【中学生・高校生調査】 【教員調査】 の Web アンケートに質問項目を組み込み、上記調査と一体的に回答いただいた。

(2) 調査項目

【小学生調査】 【中学生・高校生調査】

調査項目は下記のとおりである。（詳細は資料①②）なお、調査項目は、全国調査^{1) 2)}との比較のため、類似の項目を用いた。

- 基本情報
- 普段の生活について
- 家庭や家族のことについて
- ヤングケアラーについて

【教員調査】

調査項目は下記のとおりである。（詳細は資料③）なお、調査項目は、全国調査^{1) 2)}との比較のため、類似の項目を用いた。

- 基本情報
- 認知したヤングケアラーの状況について
- ヤングケアラー支援の連携先機関の知識・認知

【ケアに関する意識調査】

調査項目は下記のとおりである。（詳細は資料①②③）なお、項目はオリジナルに作成した。

- 基本情報
- ケア一般に対する意識

(3) 分析方法

各調査項目の記述統計により、実態を把握する。

3. 倫理的配慮

- (1) 研究の対象となる個人に理解を求め同意を得る方法と同意の撤回方法

【小学生調査】 【中学生・高校生調査】 【ケアに関する意識調査（小中高生）】

- 保護者に対しては、研究の目的、方法、倫理的配慮について記載された依頼書（資料④⑤）を調査前に各学校から配布いただいた。保護者が研究への協力を拒否する場合、児童・生徒はアンケート回答時に「協力しない」を選択することができる。
- 児童・生徒に対しても、依頼書（資料④⑤）を用いて、研究の目的、方法、倫理的配慮の説明を行い、Web アンケート（資料①②）の最後に、本研究に協力するか否かを選択する質問項目を用意し、児童・生徒は、自由意思で協力するか否か選択できるようにした。なお、アンケートの最後に設定するのは、調査内容を確認した上で判断ができるようにし、また「アンケートに協力しない」を選択した場合でも、そのことが教員や周りの児童・生徒に分からないようにするためである。
- アンケートは無記名で実施するため、回答を送信後の協力の撤回はできないことを、説明文書（資料④⑤）に記載した。

【教員調査】 【ケアに関する意識調査（教員）】

- 教員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに対して、研究の目的、方法、倫理的配慮について記載された依頼書（資料⑥）を配布いただいた。
- アンケートには、自由意思にもとづき回答いただき、アンケートへの回答を持って、調査への協力の同意とみなすこと、また、アンケートは無記名で実施するため、回答を送信後の協力の撤回はできないことを、依頼書（資料⑥）に明記した。

(2) 研究対象の個人情報の保護及び研究に関する情報の取り扱い方法

- 無記名調査であり、メールアドレスやログインIDなども収集しないため、個人情報は収集していない。
- データは統計的処理を行い、統計量を以て報告した。
- 自由回答については、個人や個別事例が同定できないようにした。

(3) 研究の対象となる個人への不利益及び危険性への配慮

- 児童・生徒ならびにその保護者が、研究への協力の有無により不利益を被ることを心配しなくてよいように、保護者からの質問や協力への拒否の申し出は、研究者が直接受けることとした。児童・生徒については、依頼書（資料⑤⑥）に学校（教員）が行うアンケートではないことを明記した。
- 回答にあたり精神的な負担を感じる可能性があるが、回答したくない設問がある場合、回答途中でも、簡便に調査を中断し、辞退することができるようにした。
- 児童・生徒は、千代田区が貸与しているタブレットPCを使用して、学校のインターネット回線に接続してWeb調査に回答するので、調査に回答することによる経済的な負担はない。

4. 調査結果の要点

(1) 【小学生調査】

- 有効回答は297人、有効回答率は60% (297/500) であった。
- 家族構成は、二人親家庭の二世帯世帯が90.2%と大半を占め、全国調査¹⁾ に比して顕著に高く、三世帯世帯は2.4%と、全国調査¹⁾ に比して顕著に低かった。(図表3)
- 健康状態については、「よい」が52.5%と最も高いが、全国調査¹⁾ に比して低かった。(図表4)
- 学校の通学状況に関して、遅刻や早退は「ほとんどしない」が73.7%と最も高かったが、全国調査¹⁾ に比して低く、「たまにする」「よくする」の割合がともに全国調査¹⁾ の約2倍であった。(図表6)
- 習い事などへの参加状況は、「参加している」が89.2%と、全国調査¹⁾ に比して顕著に高かった。(図表7)
- 現在の悩みごとは、「特にない」が77.1%と高く、全国調査¹⁾ に比しても高かった。(図表9)
- 悩みごとがある人のうち、話を聞いてくれる人が「いる」は48.4%と最も高かったが、「相談や話しはしたくない」も40.6%と高く、全国調査¹⁾ に比して、「相談や話しはしたくない」が顕著に高かった。(図表10)
- 世話をしている家族は、21.2%が「いる」と回答し、全国調査¹⁾ に比して顕著に高かった。(図表11) 一方、自身が「ヤングケアラー」に当てはまるとしたのは1.3%にとどまり、22.6%は「わからない」と回答していた。(図表26)
- 世話を必要としている家族は、「きょうだい」が60.3%と最も高いのは全国調査¹⁾ と同様であったが、これに次ぐ「母親」(34.9%)、「父親」(25.4%)は、全国調査¹⁾ に比して、顕著に高かった。世話を必要としている家族が、両親の場合、その状況については「無回答」が多く、状況を表す適切な選択肢が存在しなかった可能性が考えられる。(図表12, 13)
- 世話を始めた年齢は、「7~9才」が36.5%と最も高く、次いで「6才未満」(34.9%)であり、合わせて70%強であった。全国調査¹⁾ に比して早い時期から世話を始めていることが示された。(図表16)
- 世話をしている頻度、時間は、全国調査¹⁾ に比して少なく、世話の負荷は比較的小さいと推測されるが、「体力面で大変」、「気持ちの面で大変」、「時間の余裕がない」も2割弱でみられた。(図表17, 18, 20)
- 世話について相談した経験は、「ない」が68.3%と高く、全国調査¹⁾ と同様であったが、相談したことがある場合、その相手に「家族」、「友人」に次いで「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー」があげられたのは特徴的であった。(図表21, 22)

- 「ヤングケアラー」概念を理解しているのは30.3%であり、50.8%は「聞いたことはない」と回答した。（図表27）
- ヤングケアラーのために必要だと思うことの自由記載は、「大人に相談する・相談しやすくする」、「大人が助ける」、「子どもの負担を軽減する」、「友だちや周りの人が気にかけてあげる」が多く、全国調査¹⁾と同様の傾向にあったが、“こどもはまだ自由なことをさせていいと思う。こどもはそれが生きる権利だと思うから。”、“自由な時間が欲しい”など、「こどもの自由・権利を守る」に類する回答が多くみられたのが特徴的であった。（図表28）

（2）【中学生・高校生調査】

- 有効回答は228人、有効回答率は41%（228/550）であった。
- 二人親家庭の二世帯世帯が、中学2年生・中等教育学校前期課程2年生（以降、中学生）で81.6%、中等教育学校後期課程5年生（以降、高校生）で74.8%と大半を占め、全国調査²⁾とそれぞれ10%程度高く、三世帯世帯は2.4%、2.9%と、全国調査²⁾に比して顕著に低かった。（図表31）
- 健康状態については、「よい」が中学生で56.0%、高校生で57.3%と最も高く、全国調査²⁾に比して、特に高校生の健康状態が良いことが示された。（図表32）
- 学校の通学状況に関して、欠席は、中学、高校ともに、全国調査²⁾に比して同等～少なかったが、遅刻や早退は、全国調査²⁾に比して「ほとんどしない」が低く、「たまにする」「よくする」が高かった。（図表33,34）
- 普段の学校生活について、中学生では「提出物を出すのが遅れることが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「授業中に居眠りすることが多い」、「宿題などができていないことが多い」が20%前後見られ、全国調査²⁾に比して高かった。（図表36）
- 普段の学校生活について、高校生では「授業中に居眠りすることが多い」が53.4%と最も高く、全国調査²⁾に比して高かった。（図表36）
- 現在の悩みごとは、中学生、高校生ともに「特にない」が最も高く（68.8%、48.5%）、全国調査²⁾に比して顕著に高かった。（図表37）
- 世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学生は5.6%、高校生は1.9%で、全国調査²⁾に比して同等～低かった。（図表39）一方、自身が「ヤングケアラー」に当てはまるとしたのも0.0%、1.0%にとどまり、「わからない」も1割以下であった。（図表51）
（以下、中学生と高校生を合わせた分析）
- 世話を必要としている家族は、「きょうだい」が66.7%と最も高いのは全国調査²⁾と同様であったが、これに次ぐ「母親」（55.6%）、「父親」（33.3%）は、全国調査¹⁾に比して、顕著に高かった。（図表40）

- 世話をしている頻度、時間は、全国調査²⁾に比して少なく、世話の負荷は比較的小さいと推測された。(図表 45, 46)
- 「ヤングケアラー」概念の認知度について、「聞いたことはない」は中学生で 20.0%、高校生で 35.9%であり、いずれも全国調査²⁾に比して著しく低かった。(但し、全国調査²⁾は、令和 2 (2020) 年度実施) (図表 52)
- ヤングケアラーのために必要だと思うことの自由記載は、「ヤングケアラーについての啓発活動」、「大人に相談する・相談しやすくする」が多く、相談相手として「ピアサポート」もあげられていた。(図表 53)

(3) 【教員調査】

- 有効回答は 111 人、有効回答率は 34% (111/330) であった。
- 「ヤングケアラー」概念の認知度は、小学校、中学校・高校教員ともに、9 割を超えており、中学校・高校教員では、全国調査^{1) 2)}に比して高かった。(但し、中学校・高校の調査²⁾は令和 2 (2020) 年度実施) (図表 57)
- 現在、千代田区立の学校でヤングケアラーと感じている児童・生徒の数は、小学校、中学校・高校教員ともに 0 名が 6 割弱と最も高く、次いで 1 人となっていた。なお、全国調査^{1) 2)}において、ヤングケアラーに該当すると思われる児童・生徒が「いる」と回答した学校は、小学校 34.1%、中学校 46.6%、高校 49.8%であった。(図表 61)
- ヤングケアラーと感じる児童・生徒の、家族の世話の内容は、小学校、中学校・高校教員ともに「幼いきょうだいの世話」が最も高かった。全国調査²⁾においては、高校で 6 割以上と高かった。「家計を支えるために、アルバイト等をしている」は、3.6%にとどまった。(図表 62)
- ヤングケアラーと感じる児童・生徒への、家族の世話による影響は、小学校教員では「宿題をしてこない」が 52.9%で最も高く、中学校・高校教員では「遅刻」が 60.7%と最も高かった。(図表 63)
- 児童・生徒がヤングケアラーであることに気づいた経緯としては、小学校教員では「他の教員から情報提供があったから」が 50.0%、「学校生活への影響が出ていたから」が 44.1%であった。中学校・高校教員では、「学校生活への影響が出ていたから」が 53.6%であった。(図表 64)
- ヤングケアラーと思われる児童・生徒と関わる上で困ったことは、「本人・家族が支援を求めている」、「実態の把握・理解が難しい」、「教員単独で解決できる問題ではない」などであった。(図表 65)
- ヤングケアラーと思われる児童・生徒をつないだ外部の支援先としては、小学校、中学・高校教員ともに「子ども家庭支援センター」が最も多かった。(図表 67)
- ヤングケアラーと思われる児童・生徒を支援する上での課題としては、小学校、中学

校・高校教員ともに、「家庭のことで問題が表に出にくく、実態の把握がむずかしい」が8割以上で最も高く、全国調査^{1) 2)}と同様であった。(図表 69)

- ヤングケアラーを支援するために必要なこととしては、小学校、中学校・高校教員ともに、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」(75.8%、81.6%)が最も高く、「教職員がヤングケアラーについて知ること」(66.1%、61.2%)がこれに続いた。小学校教員では、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」も6割を超えており、「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職の配置が充実すること」「福祉と教育の連携をすすめること」は、小学校、中学校・高校教員ともに5割を超えていた。全国調査^{1) 2)}でも概ね同様の傾向であるが、「福祉と教育の連携をすすめること」は2割以下である。(図表 70)
- 千代田区内の支援機関の認知としては、「児童・家庭支援センター」は、小学校、中学校・高校教員ともに、「サービス内容も知っている」が5割を超え、最も認知度が高かった。「社会福祉協議会」は、「名前だけは知っている」が4割強であった。「地域包括支援センター」「障害福祉センター」「MOFCA」の認知度は非常に低かった。(図表 72, 73, 74, 75, 76)

(4) 【ケアに関する意識調査】

- 「家族のケアのために自分のことを我慢するのは当たり前か」、「家族のケアはできる限り家族だけで努力すべきか」、「家族のケアの体制に他人は口出しを控えるべきか」について、「そう思う」の回答は、いずれも教員では数%に留まったが、小学生では3割強が「そう思う」と回答していた。(図表 77, 78, 79, 80, 81, 82)
- 「たとえ大変そうでも家族のケアを行うことはよいことか」について、小学生では4割強が「そう思う」と回答していた。(図表 87)

5. 総括

千代田区の小学5年生においては、大人がするような家族の世話を自身が行っていると感じている割合が21.2%と、全国調査に比して顕著に高いことが示された。世話をしている相手として最も多いのは幼いきょうだいであったが、母親や父親をあげる割合も高く、今後その理由について明らかにしていく必要がある。世話の負担は比較的軽いと考えられるが、核家族が多い特性から、一人で世話をしている割合が高く、中には心身の負担感を訴える者もあり、看過できないケースもあると考えられる。小学生全体として、全国に比較して習い事を行う割合、遅刻や早退をすることがある割合が高く、自由記載からは自由な時間を求める声も認められ、千代田区独自の家庭環境を踏まえた支援の必要性が示唆される。

千代田区の中学2年生、並びに高校2年生(中等教育学校後期課程5年生)において

は、大人がするような家族の世話を自身が行っていると感じている割合は、それぞれ5.6%、1.9%であり、全国に比して同等、若しくは低い割合であった。世話をしている相手として最も多いのは幼いきょうだいであったが、母親や父親をあげる割合も高く、今後その理由について明らかにしていく必要がある。世話の負担は全国に比して軽く、特に高校生において、家計を支える役割を担っている者が認められなかったのは特徴的である。

「ヤングケアラー」概念の認知度は、教員、中学生、高校生では高かったが、小学生では低く、また、教員、中学生、高校生と比較し、家族の世話を引き受けることを無条件によい行いと捉える傾向があることから、「ヤングケアラー」概念の普及啓発を行い、自ら支援を求められるようにしていくことが重要と考えられる。全国に比較し、スクールソーシャルワーカーがよく機能していることが示唆されたが、より相談しやすい環境を整えていくことも必要と考えられる。

教員が支援をおこなっていく上で、教育と福祉の連携の重要性も指摘されていたが、連携先となる外部機関や、福祉制度についての認知度は十分ではないことが示唆されており、より分かりやすい情報提供と、教育と福祉をつなぐ体制の強化も求められる。

6. 本調査の限界

本調査の有効回答率は、小学生60%、中学生・高校生41%、教員34%であったため、本テーマに関心の高い人が中心に回答していたり、問題を抱えてる人は回答しなかったりすることにより、バイアスを生じている可能性を否定できない。また、Web調査であったため、入力に不慣れな人が回答を避けたり、誤回答する可能性も避けられない。

なお、小学生調査で、ペットを家族として回答し、その世話について説明している者が数名存在したが、本調査の趣旨からペットは家族と判断せず、当該回答については無回答として扱った。

【引用文献】

- 1) 厚生労働省・文部科学省 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（実施主体：日本総合研究所），2022.
3. URL：
https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/2021_13332.pdf
(2023年3月12日閲覧)
- 2) 厚生労働省・文部科学省 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（実施主体：日本総合研究所），2021.
3. URL：https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf
(2023年3月12日閲覧)

III. 調查結果

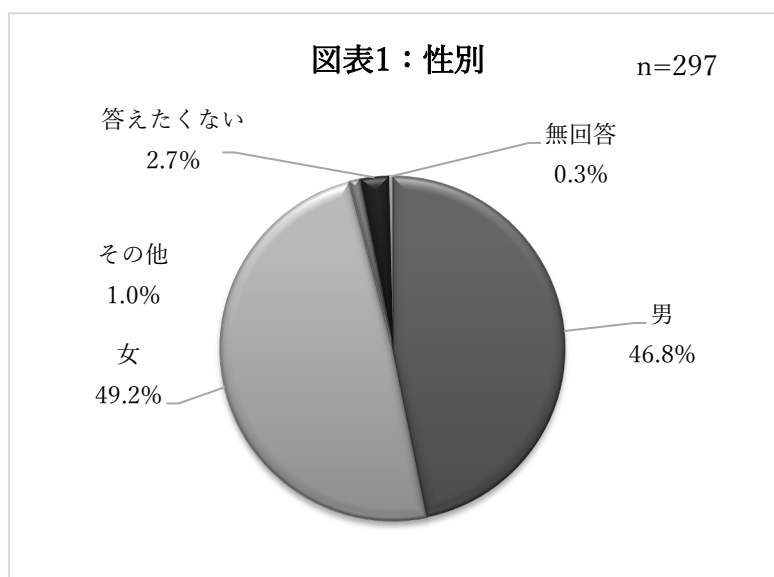
III. 調査結果

1. 小学生調査の結果

(1) 基本情報

① 性別

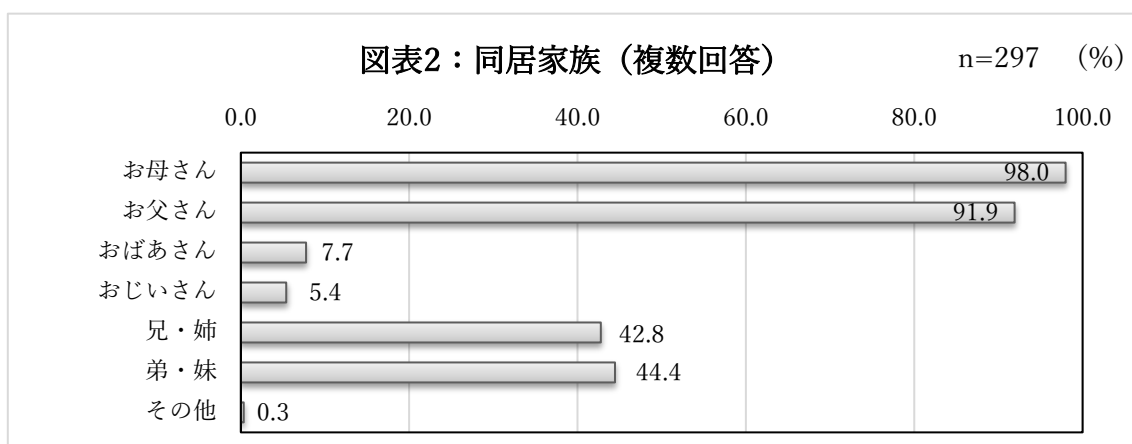
回答者の性別は以下の通り、男女比はほぼ1対1であった。



② 同居家族

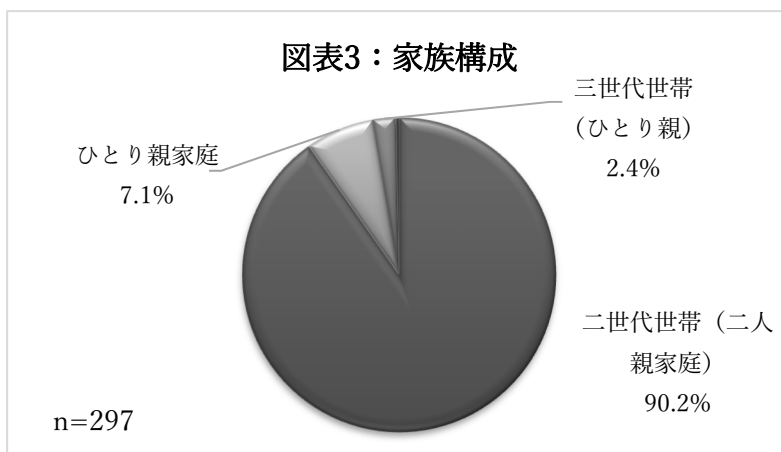
同居家族の「母親」、「父親」、「兄・姉」、「弟・妹」の割合は、全国調査¹⁾と同水準であった。

一方、「祖母」「祖父」の割合は、全国調査¹⁾における小学6年生（以下、全国調査、とする）の約半分であった。



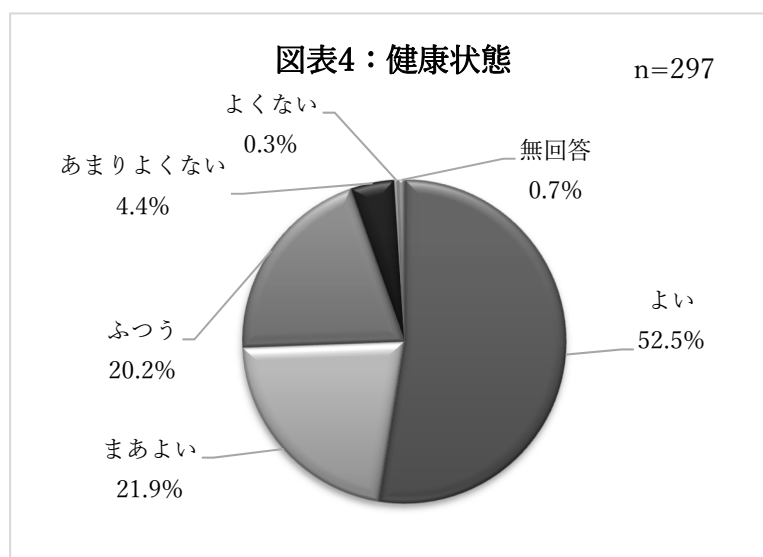
③ 家族構成

二人親家庭の二世帯世帯が90.2%と大半を占めた。(全国調査¹⁾ 72.8%)
三世帯世帯は2.4%と、全国調査¹⁾ の17.4%に比して顕著に低かった。



④ 健康状態

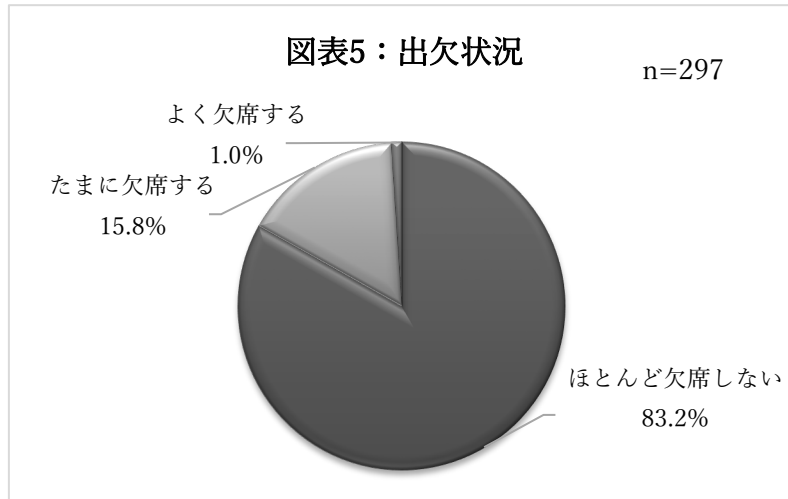
健康状態については、「よい」が52.5%と最も高いが、全国調査¹⁾ の66.9%に比して低かった。



(2) 普段の生活について

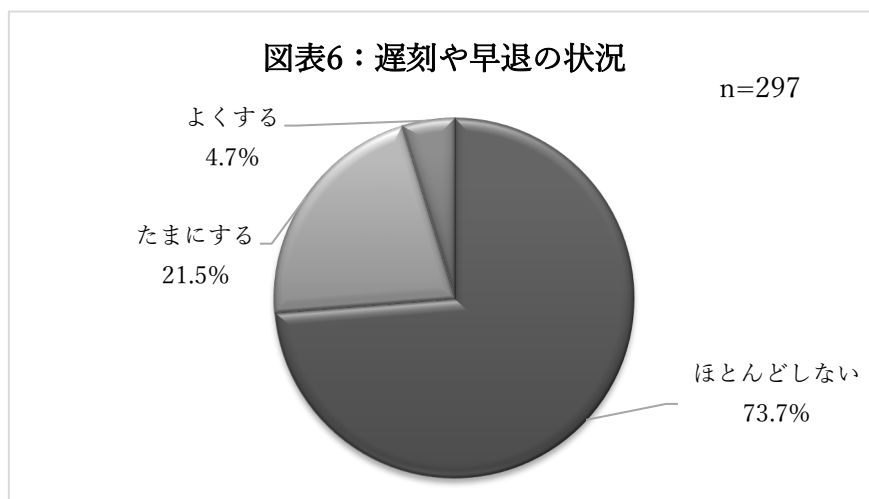
① 学校への通学状況：出欠状況

出欠の状況は、「ほとんど欠席しない」が83.2%と最も高く、全国調査¹⁾と同水準であった。



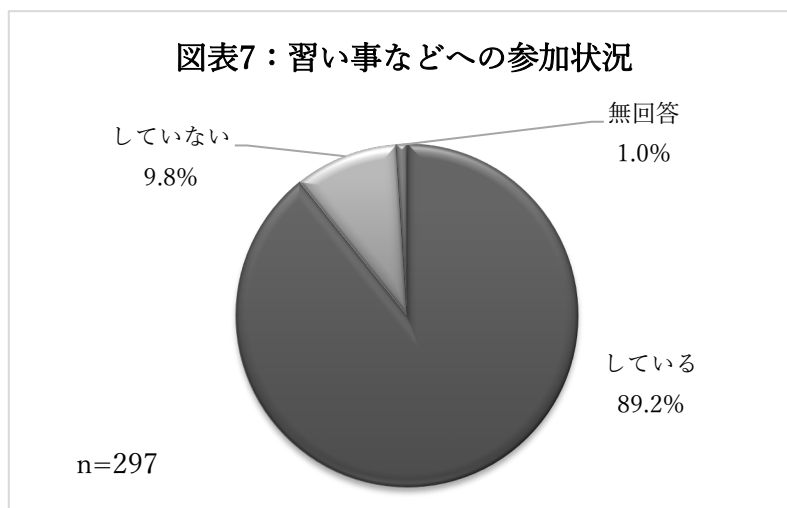
② 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が73.7%と最も高かったが、全国調査¹⁾の87.3%に比して低く、「たまにする」「よくする」の割合がともに全国調査¹⁾の約2倍であった。



③ 習い事などへの参加状況

習い事などへの参加状況は、「参加している」が89.2%と、全国調査¹⁾の72.6%に比して顕著に高かった。

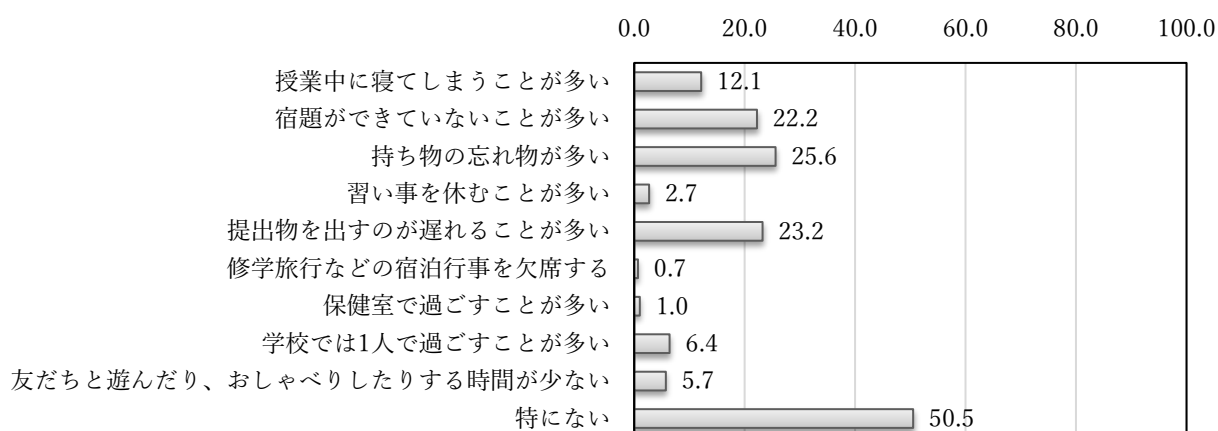


④ 普段の学校生活などであてはまること

普段の学校生活などであてはまることについては、「特にない」が50.5%と最も高くなっている。

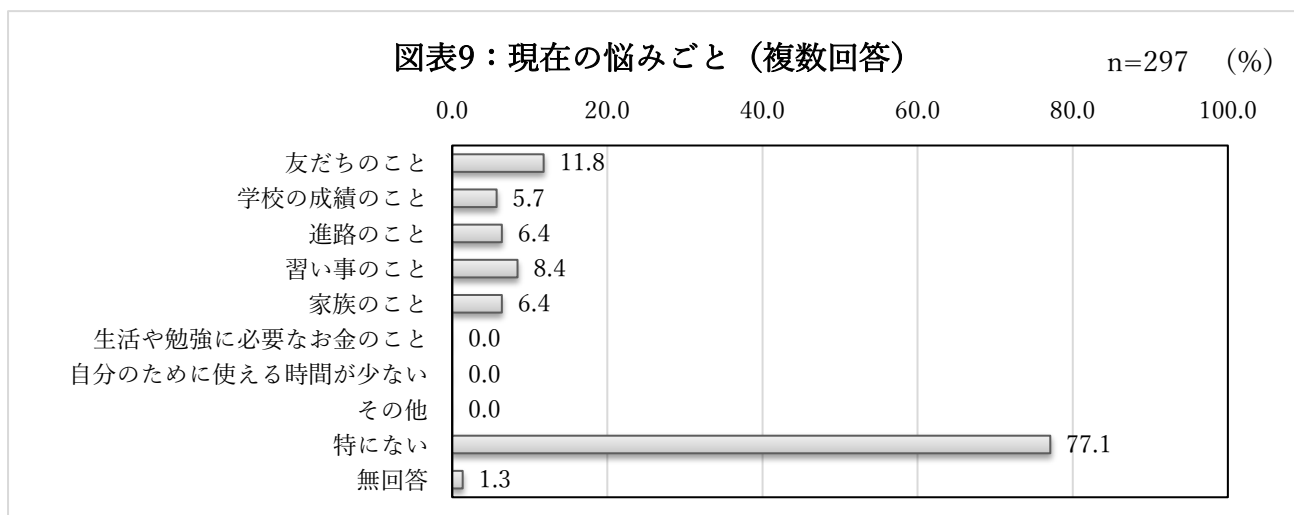
次いで、「持ち物の忘れ物が多い」「宿題ができていないことが多い」「提出物を出すのが遅れることが多い」が20%以上となっている。全国調査¹⁾では、それぞれ、18.6%、7.5%、13.7%であり、特に「宿題ができていないことが多い」が高いという特徴が認められた。

図表8：普段の学校生活などであてはまること（複数回答） n=297 (%)



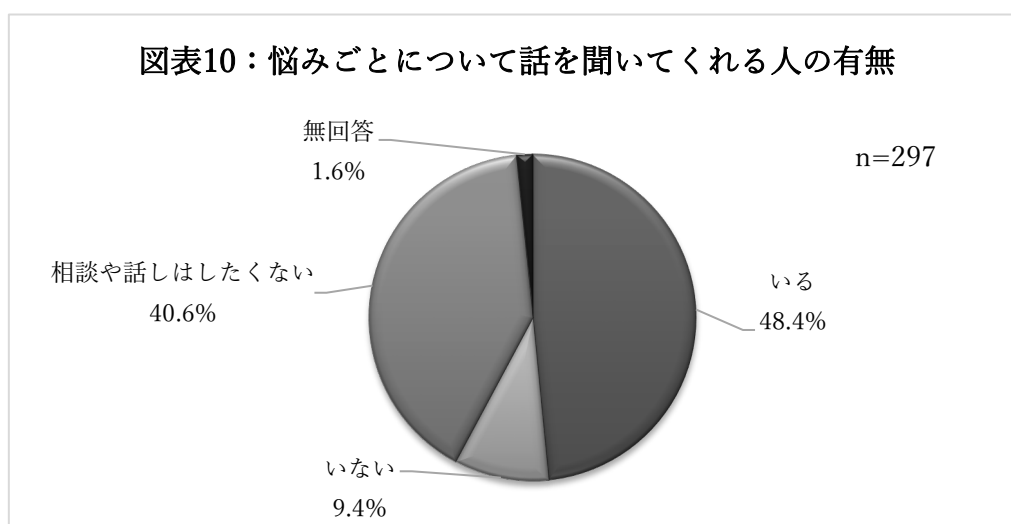
⑤ 現在の悩みごと

現在の悩みごとは、「特にない」が77.1%と高く、全国調査¹⁾の68.9%に比しても高かった。



⑥ 悩みごとについて話を聞いてくれる人の有無

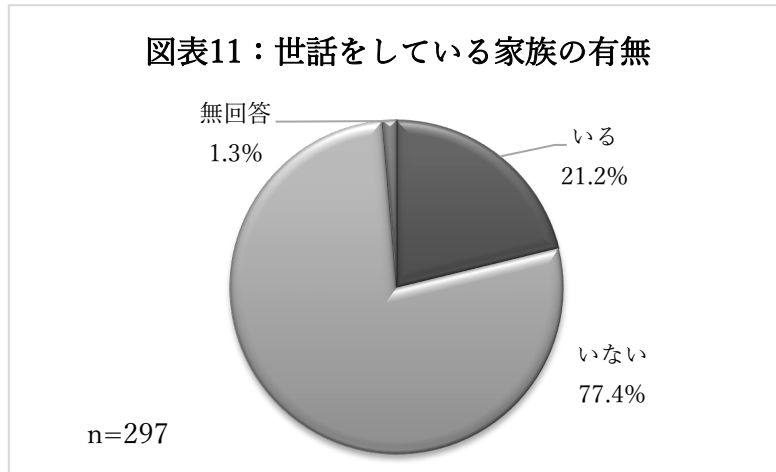
前問で何らかの悩みごとがあると回答した人に、話を聞いてくれる人の有無を問うたところ、「いる」が48.4%と最も高かったが、「相談や話しはしたくない」も40.6%と高かった。全国調査¹⁾では、それぞれ、62.5%。25.9%であり、「相談や話しはしたくない」が顕著に高いという特徴が認められた。



(3) 家庭や家族のことについて

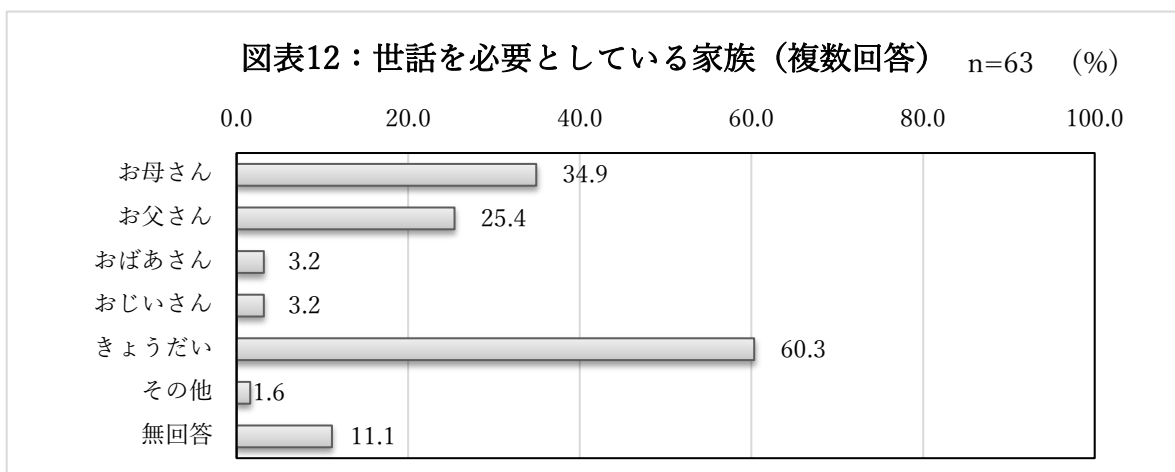
① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族については、21.2%が「いる」と回答し、全国調査¹⁾の6.5%に比して顕著に高かった。



② 世話を必要としている家族

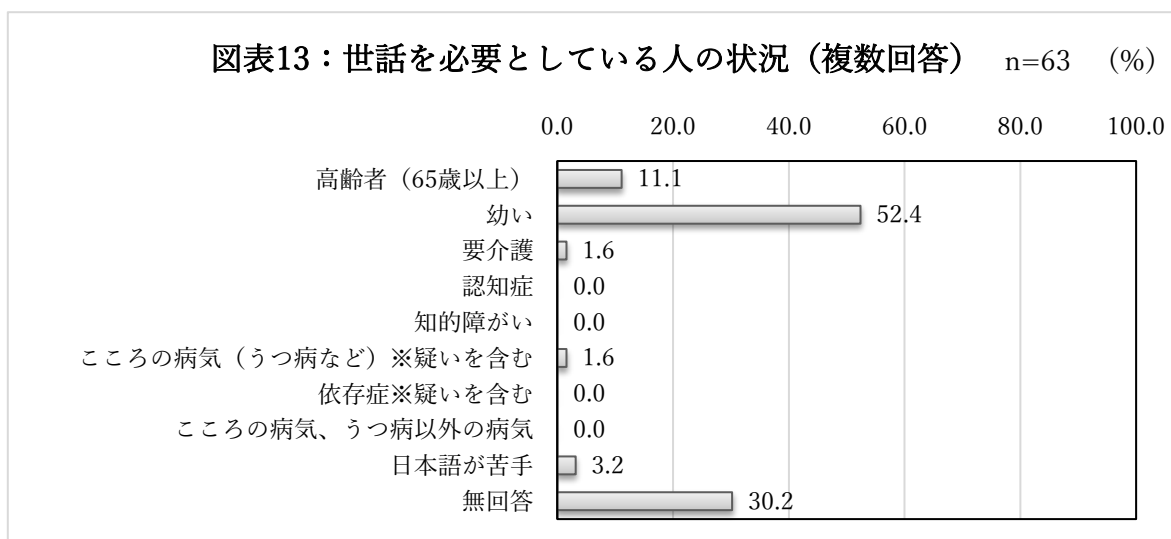
世話を必要としている家族については、「きょうだい」が60.3%と最も高く、次いで「母親」が34.9%、「父親」が25.4%となっている。全国調査¹⁾では、それぞれ71.0%、19.8%、13.2%であることから、「母親」と「父親」が顕著に高いという特徴が認められた。



※その他の自由記載：ひいおばあちゃん

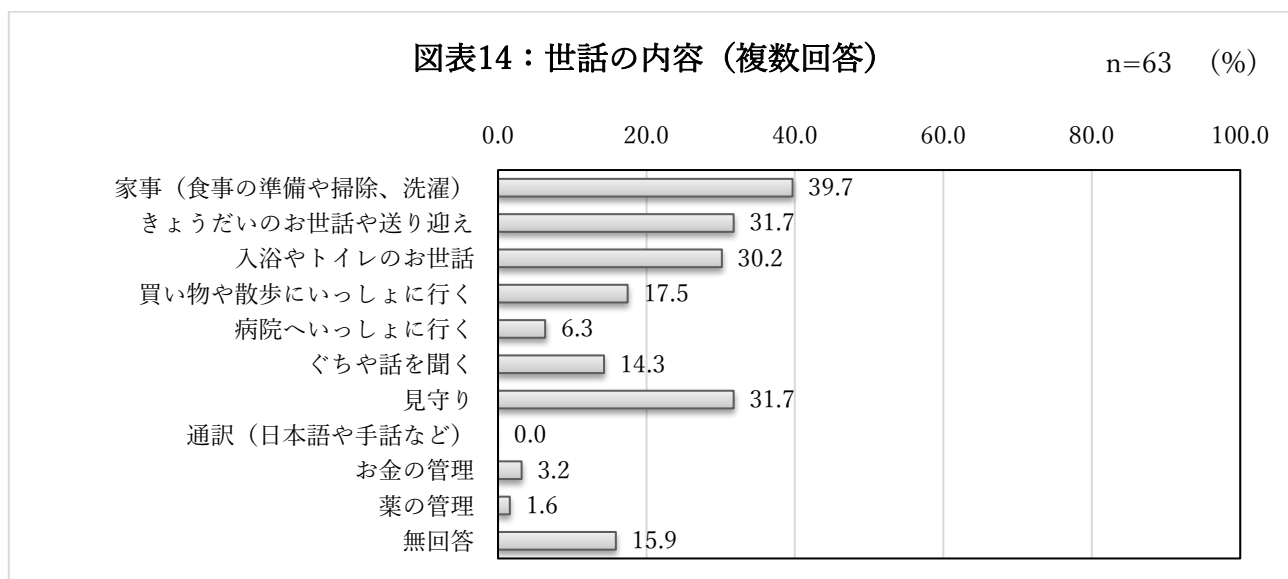
③ 世話を必要としている家族の状況

世話を必要としている家族の状況としては、「若い」が52.4%と最も高く、次いで「無回答」30.2%であった。世話を必要としている家族が「母親」「父親」である場合に「無回答」が多く、中には「若い」が選択されているケースがあったことから、「母親」と「父親」が世話を必要とする状況について、適切な選択肢が存在しなかった可能性が考えられる。



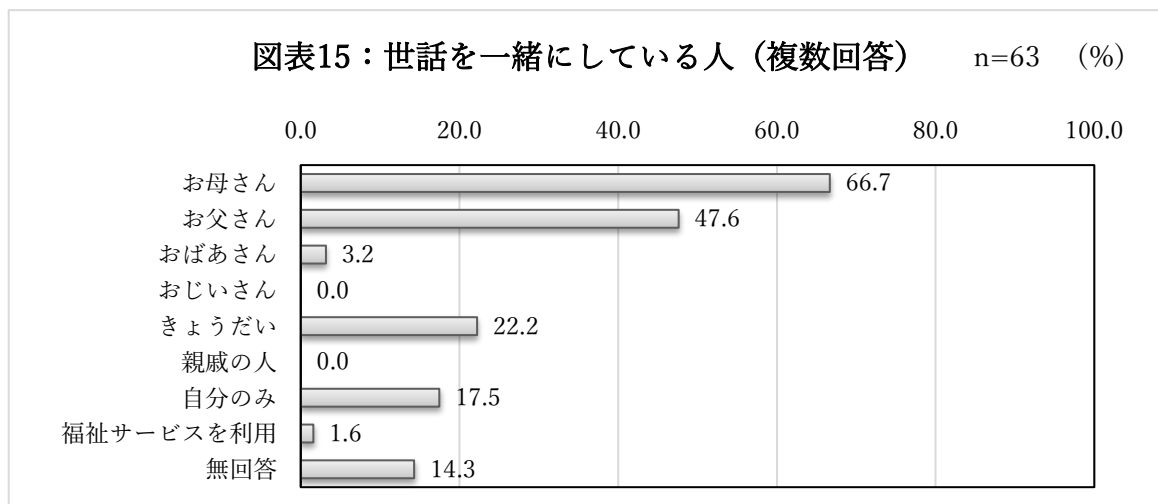
④ 世話の内容

世話をしている家族がいると回答した人に、世話の内容について問うたところ、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が39.7%と最も高く、次いで「きょうだいのお世話や送り迎え」「見守り」がともに31.7%であり、概ね全国調査¹⁾と同様の傾向であった。



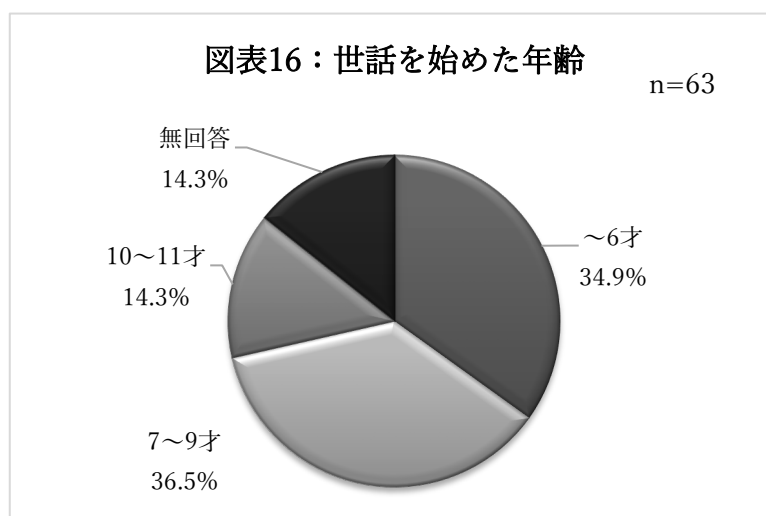
⑤ 世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、「母親」が66.7%と最も高く、これに「父親」(47.6%)、「きょうだい」(22.2%)が続くのは、全国調査¹⁾と同じ傾向であった。但し、「自分のみ」は全国調査¹⁾の約1.7倍高かった。



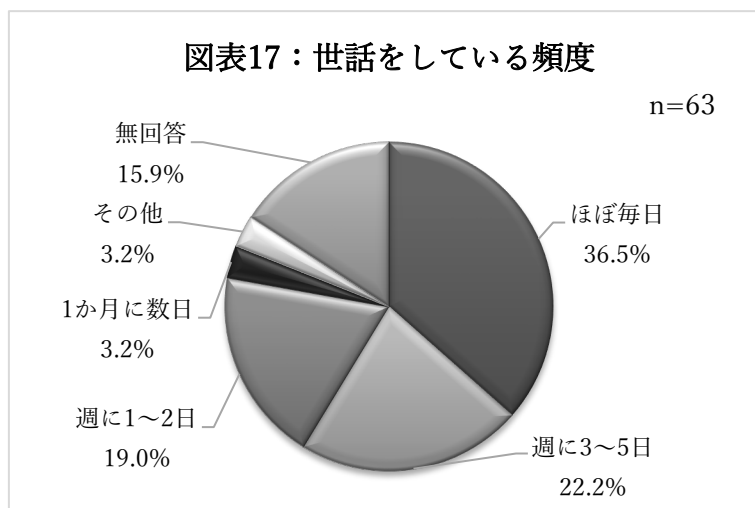
⑥ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢は、「7～9才」が36.5%と最も高く、次いで「6才未満」(34.9%)であり、合わせて70%強であった。全国調査¹⁾では9才未満は50%弱であるのに比較して、全国に比して早い時期から世話を始めていることが示された。



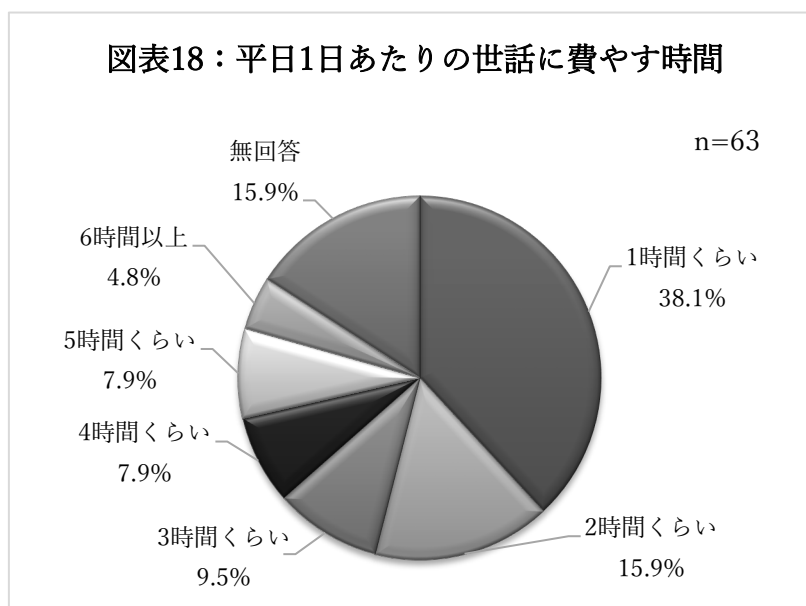
⑦ 世話をしている頻度

世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」が36.5%と最も高かったが、全国調査¹⁾では52.9%であり、全国に比して世話をしている頻度は低くなっていた。



⑧ 平日1日あたりの世화에費やす時間

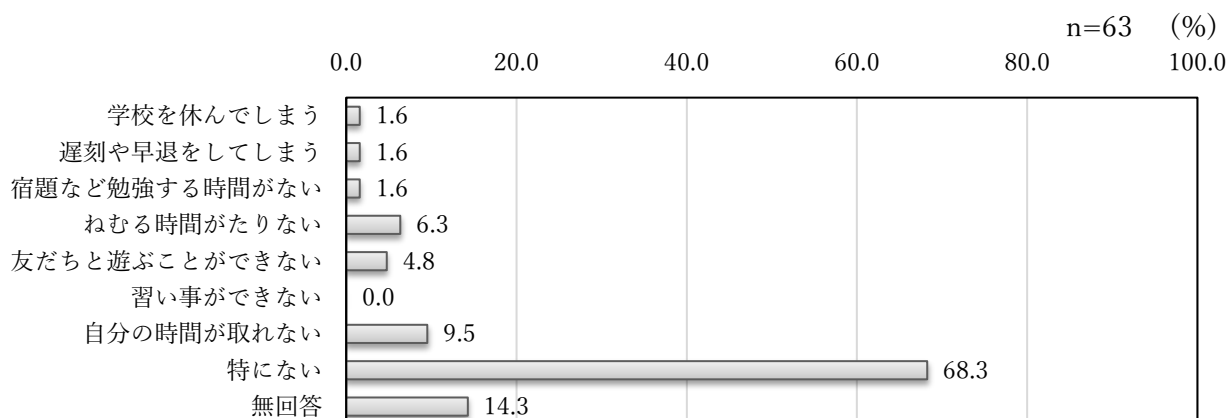
平日1日あたりに世話を費やす時間については、「1時間くらい」が38.1%と最も高く、無回答を除いた回答者の平均は2.3時間となっている。全国調査¹⁾では、「1~2時間未満」が27.4%と最も高く、平均は2.9時間であることから、全国に比して世화에費やす時間は短いことが示された。



⑨ 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

世話をしているためにやりたいけれどできていないことについては、「特にない」が68.3%と高く、全国調査¹⁾と同様の傾向にあった。

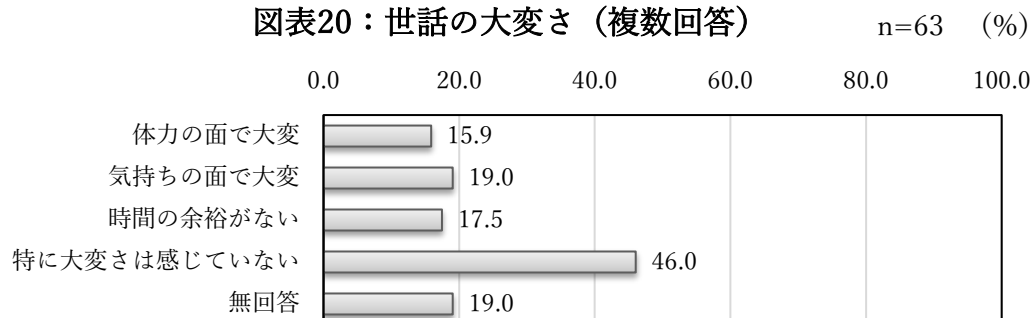
図表19：世話をしているためやりたいけれどできないこと（複数回答）



⑩ 世話の大変さ

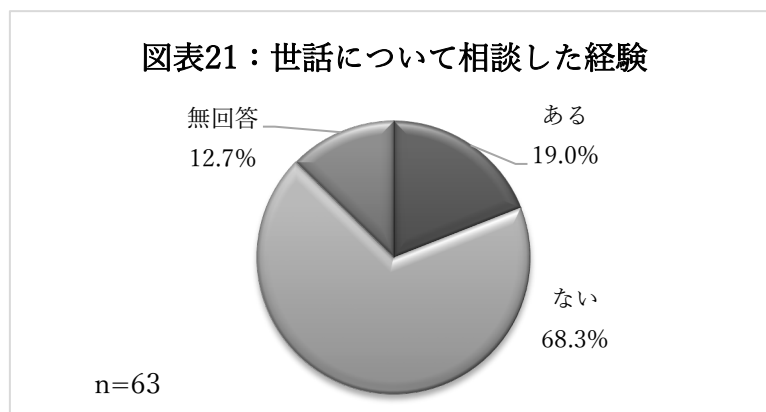
世話の大変さは、「特に大変さは感じていない」が46.0%と最も高く、その他は20%弱であり、全国調査¹⁾と同様の傾向を示した。

図表20：世話の大変さ（複数回答）



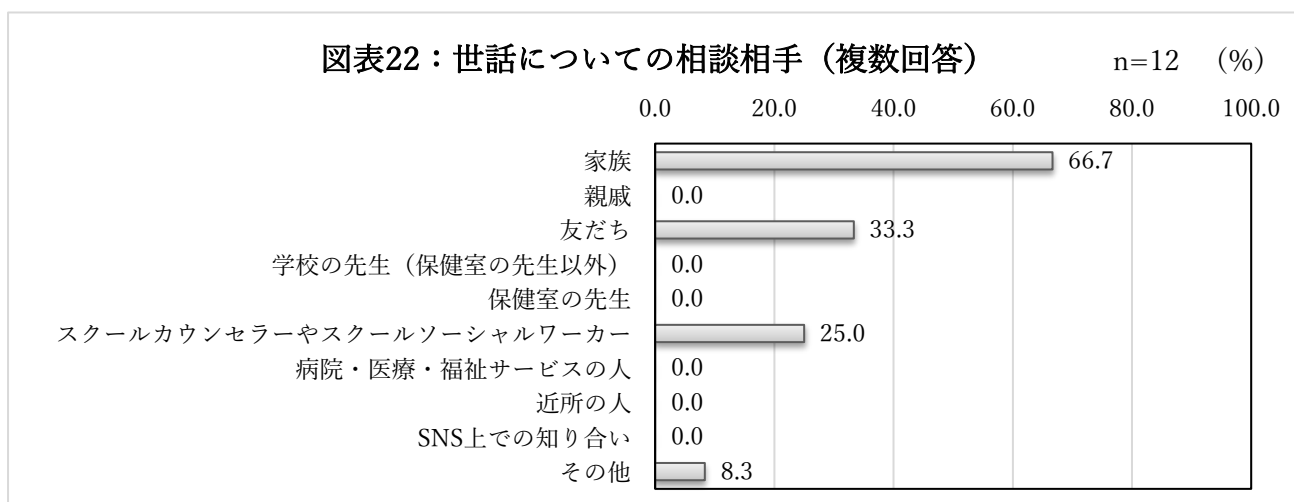
⑪ 世話について相談した経験

世話について相談した経験は、「ない」が68.3%を占め、全国調査¹⁾と同様の傾向を示した。



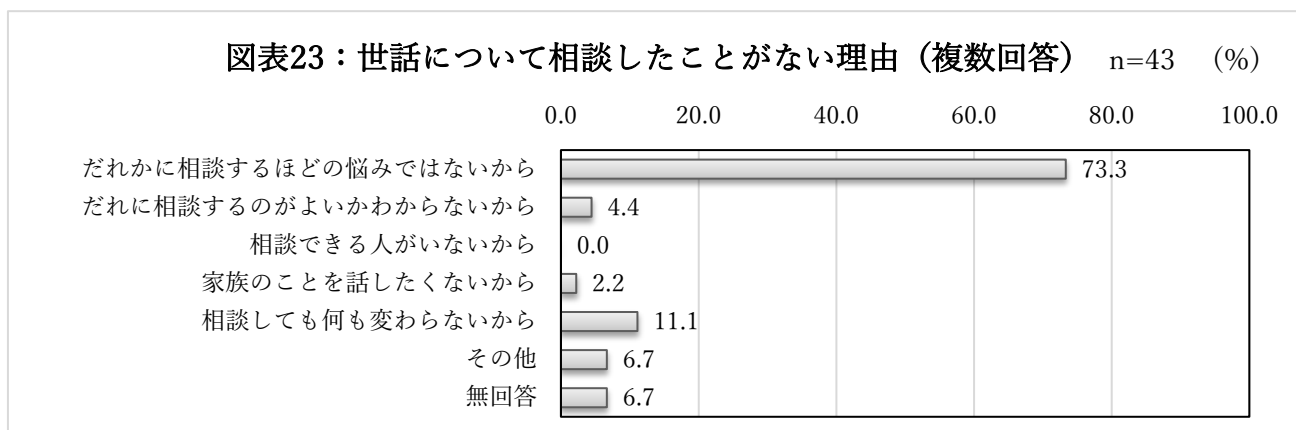
⑫ 世話についての相談相手

世話について相談したことがある人の相談相手は、「家族」が66.7%と最も高く、これに「友だち」が続き、この点は全国調査¹⁾と同様であった。一方、「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー」が25.0%と3番目に高かったのは、特徴的な結果であった。



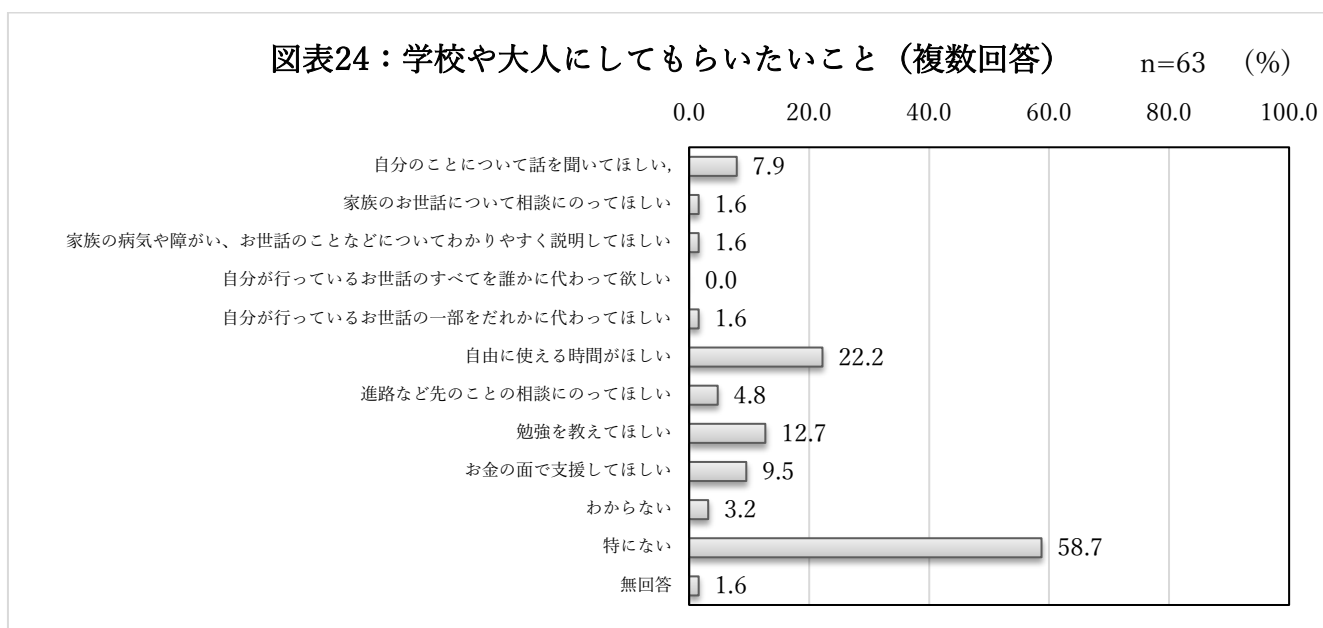
⑬ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、「だれかに相談するほどの悩みではないから」が73.3%と最も高く、全国調査¹⁾と同様の傾向であった。



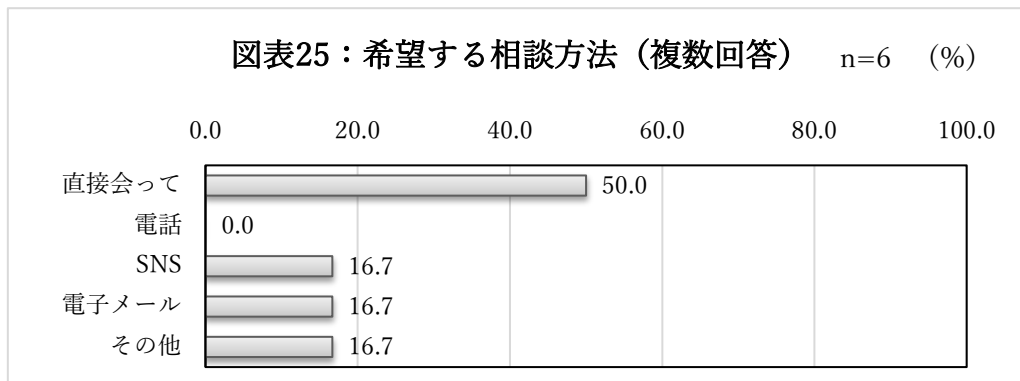
⑭ 学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、「特にない」が58.7%と最も高かったが、その他では「自由に使える時間がほしい」(22.2%)、「勉強を教えてほしい」(12.7%)が比較的高く、全国調査¹⁾と同様の傾向にあった。



⑮ 希望する相談方法

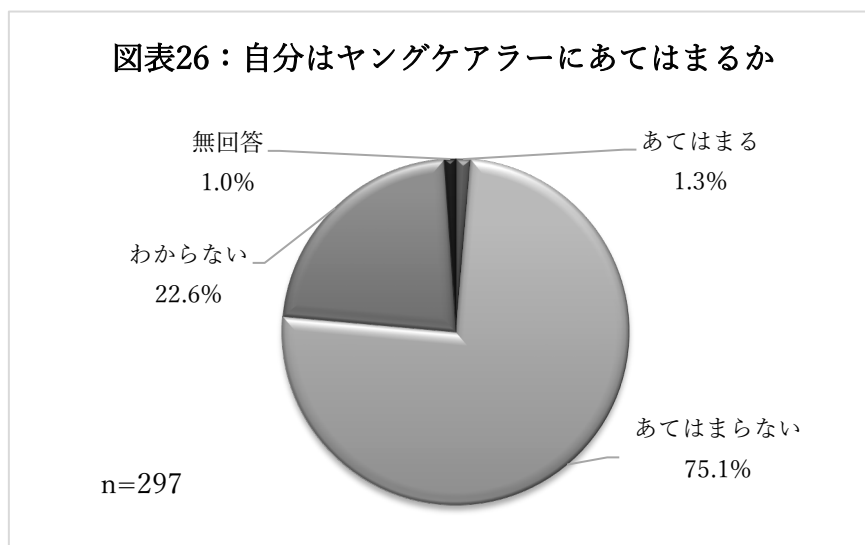
前問で「自分のことについて話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に希望する相談方法について聞いたところ、「直接会って」が50.0%ともっとも高く、全国調査¹⁾と同様であった。



(4) ヤングケアラーについて

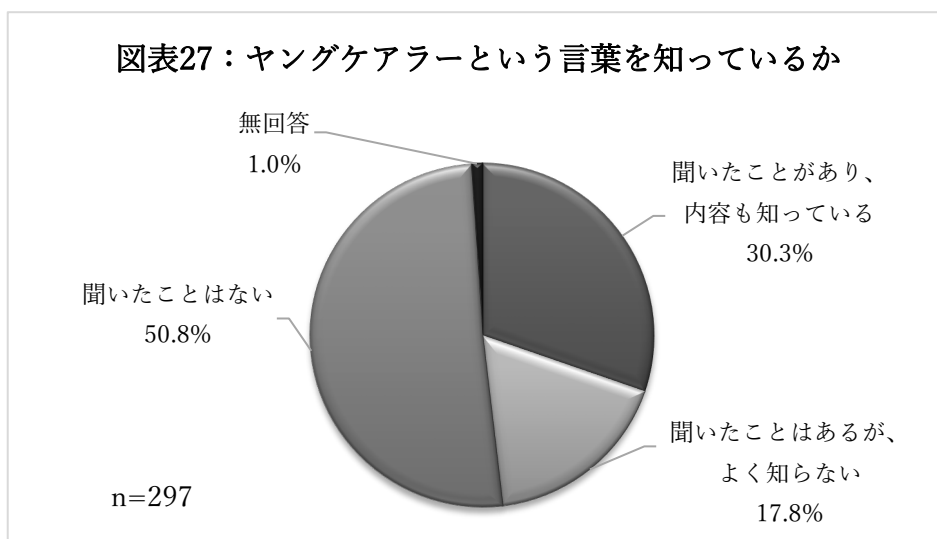
① 自分はヤングケアラーにあてはまるか

「自分はヤングケアラーにあてはまると思うか」と問うたところ、「あてはまる」の回答は1.3%のみであり、「わからない」の回答も22.6%存在した。



② 「ヤングケアラー」概念の認知度

「ヤングケアラーという言葉を知っているか」問うたところ、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 30.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 17.8%と、聞いたことがある人は約半数を占めていた。



③ ヤングケアラーのために必要だと思うこと

「ヤングケアラーのために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいこと」についての自由記述について、一部編集の上、以下に示す。

図表 28：ヤングケアラーのために必要だと思うこと（自由記述）

【大人に相談する・相談しやすくする】

ほかの大人や学校に相談する。そのようなことができない場合、支援をする
たとえば食事の支援や精神科などに相談する。悪い食生活「コンビニ弁当」
など食べていると思うでも自分もコンビニ弁当の時があってあまり
満足出来なく体重が増えたり肌が良くないと思うから食事の支援をした方がいい。
お悩み相談ダイヤルみたいなのを配られても、電話かけられないし、意味がないと思ってきた。
なので、私みたいな人だったら答えられないかもしれないけど、一人ずつ誰か先生とかに話す機会を作ったほうがいい
と思う
もっと相談しやすくする。
ヤングケアラーが怖がらずに話すことができる大人がいること。

ヤングケアラーに当てはまる人に対して大人などが相談に乗ったほうが良いと思う。

ヤングケアラーのための相談所の開設

ヤングケアラーをしている人が希望の相談をできる場所が必要だと思う。（事を大きくしたくないひともあるかもしれないから。）

ヤングケアラー専用相談室

ヤングケアラーの相談の電話を受け付ける

何か相談されたら一緒に相談してもらいたい

学校の休み時間にスクールカウンセラーの相談をしやすくしてほしい。

学校で疲れていそうな子がいたりしたら悩みを聞いてあげてほしい。

困っていたら相談に乗ってあげてほしい。

自由に相談できる場所が必要だと思います。

周りの人に相談し、1人で抱えないこと。

周りの人に相談する。

周りの大人が相談してあげること。

相談したいことを聞いて自分の状況を知ってもらいたい。

相談したりすること

相談する場所

相談できるようにする

相談できる人に言う

相談に乗ってあげる

相談をする。ヤングケアラー専用の相談窓口を作るなど

相談をできる相談所などがあつたほうが良いと思う。

相談を聞いてもらう

相談を聞くようにする

大人に相談し、一人で抱えないこと。

誰でもそういうことを、相談できるような社会になることが良いと思います。

内容をきいてもらうこと

無理をせずに周りの大人に気楽に相談できる環境を作った方が良いと思う。

他の人に相談する

親に言ってくださいとお願いをする。

【大人が助ける】

「ヤングケアラー」の人は困っていたら、誰かに相談して、その相談された人（大人）は耳を傾けて、解決してあげることが大切だと思う。

もし困っていて相談したら相談された大人は協力してほしい。

ヤングケアラーのために行動する

ヤングケアラーのひとを見つけたら、周りの大人の人は助けてあげるべきだと思う。

ヤングケアラーの人たちは、まわりの大人の人たちに相談することが大事だと思います。

大人の人たちは、そのことに気付いてあげて、相談にのってあげたり、協力することが大事だと思います。

学校の援助

学校や地域の人が手伝う

自分の子供が「ヤングケアラー」だとわかっているなら、家事をやってほしい。周りの人が気づいていたら、声掛けをするといいと思う。

周りの人の助け

周りの大人が支援する

周りの大人に「ヤングケアラー」を助けてもらいたい。

【子どもの負担を軽減する】

ヤングケアラーが大変だったら、日にちや時間を指定して利用できるヘルパーがあったらいいと思う。

ヤングケアラーのお手伝いをしたりする

ヤングケアラーのために、できるだけ子供にたよらずどうしてもできないことは協力してやる。

家事を助けてくれる人

子供のお手伝いに、お手伝いさんをもっと増やすことがいいと思う。

周りの大人が介護してあげればいいと思う。

周りの大人が介護してくれればいいと思う。

周りの大人たちに手伝ってもらう

周りの大人の協力、国の援助、ボランティアと一緒に世話をしてくれる人

大人の人の方が介護などには向いていると思う。

大人がやってあげる！

大人がやるものは、大人がやり責任を持ってほしい

子供にまかせっきりにしないほうがいいと思う

子供たちが学校にいけないというのはなくしたいです。大人たちがボランティアと介護してくれると嬉しいです。

無料で家政婦をやとえるようにするといいと思う。

料理を作るなど家事を手伝ってほしい

もっと子供を楽にしてあげてほしい

やらせることを減らす。

【友だちや周りの人が気にかけてあげる】

その子供に話しかけて友達になって話を聞いてあげる

その人がいたら、その人に寄り添い、楽にさせてあげられる方法を探してあげて、助けを求めてあげることが大切なことだと思います。

その人に声をかけ寄り添うこと。

お互い分かり合う。

ヤングケアラーの子に、大丈夫？と言ったりする。

ヤングケアラーの人がいたら助けてあげたい。

少しでも気を配ってもらいたい

心配してくれる友達

人のことを心配する。

他の人がその人がヤングケアラーだということを理解して、助けてあげる。

大人が声をかけていくこと。

大人は子供が自分のしたいことをできているかしっかり子供に確認してほしい。

気にしろ

子供の様子を見る

子供の話を聞く。

話を聞いてあげること

話を聞く

優しくてすぐにあきらめないことが大切だと思う。

優しく声をかける。

国などがヤングケアラーに対する対策が必要だと思うし子どもがやつれていたらすぐ話を聞いてほしい

子供にも権利はあるはずなので学校や周りの人などは子供のことも考えてほしい

生活バランスが崩れていたり、元気がない人には積極的に声を変えていってほしい

疲れていたり、よく遅刻する子がいれば大丈夫か聞く. etc

【自分で助けを求める】

すべて1人でやろうとせず、自分以外もちゃんと頼る

たすけてもらう

もしヤングケアラーの人がいるならば素直に助けを求めたほうがいいと思う。

もっと大人を頼るべきだ

助けが必要だったら、大人に言った方がいいと思う。

本音を言う!!

アドバイスをもらうこと

【こどもの自由・権利を守る】

こどもはまだ自由なことをさせていいと思う。こどもはそれが生きる権利だと思うから。

もっとヤングケアラーを自由にする。

子どもの権利を守ってほしい。

子供たちの自由を少しでもいいから与えてほしい

子供にも自由を与える

子供に権利を与えてほしい

自分のための、時間をつくる

自分の時間が必要だと思う

自分の時間をもうけてほしい

自由。解放。

自由な時間が欲しい

自由な時間を与える。

自由にやらせてもらう

自由に遊ぶ、勉強すること

自由に遊べる日を作る。

自由を与える。

自由時間が欲しい

自由時間を確保すること

周りの家族を支えることは大切だけれど、一人一人の自由も尊重すべきだと思う。

【やりたいことができるようにしてあげる】

やりたいことをやらせてあげる

ヤングケアラーでその人のやりたいことがさげられることがないように、他の大人がヘルパーのような形でその家庭を手伝ってあげてほしいと思う。

なんでもチャレンジする機会や、普段できない色々な体験する。

好きなことを1回でもいいからやらせてほしい！

子供自身がしたいことを精一杯できる世の中にする

自分のやってみたいことなどにちょうせんさせてあげることがひつようだと思う

十分な勉強時間と遊び時間

【金銭的に援助する】

ヤングケアラーの人の家族に少しでもいいからお金を寄付する活動を作してほしい。

そのヤングケアラーの生活が貧しいものだったら、周りの人が助けたり、募金を行ったりするといいと思う。

学費をなるべく少なくしたり、大人のほうから声をかけて相談にのってほしい。

補助

募金

生活補助

【ヤングケアラーについての啓発活動】

まずはどういう意味か教えてほしい

子供がやる(ヤングケアラー)こと自体がおかしいので自分でも友達でもその様な立場に立っているということをつからせるようにしてほしい

全員に行うアンケートをしたり、自分がヤングケアラーだとわかるようにしたりすること。また、相談しやすい状況をつくること。

【国などが対策を立てる】

介護福祉士につく人を支援して、介護福祉士を雇っている会社とヤングケアラーへの補助金を国から給付するべき
介護支援専門員や介護施設を税金で増やす。

ヤングケアラー子どもを支援する施設やその子の家に無料でお手伝いさんのような人がいくサービス

家事や家族の世話を無料でする人(ヘルパーさん)を全国的に増やす。

国が対策を行う

国などがヤングケアラーに対する対策が必要だと思うし子どもがやつれていたらすぐ話を聞いてほしい

そんな環境にならないように、対策をする。

ヤングケアラーの調査を進め、できる範囲でも自身の権利を尊重するようにする

子どもを助ける人を作ってほしい

【精神的ケア】

メンタル保護

精神などのケア

2. 中学生・高校生調査の結果

(1) 基本情報

① 性別

回答者の性別は以下の通り、男女比はほぼ1対1であった。

図表 29：性別

	性別			
	男	女	その他	答えたくない
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	44.8%	53.6%	1.6%	0.0%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	46.6%	50.5%	1.0%	1.9%

② 同居家族

同居家族の「母親」、「父親」、「兄・姉」、「弟・妹」の割合は、全国調査²⁾とほぼ同水準であった。一方、「祖母」「祖父」の割合は、全国調査¹⁾で10~20%であったのに比して顕著に低かった。

図表 30：同居家族（複数回答）

	同居家族							
	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	無回答
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	99.2%	84.0%	4.0%	2.4%	36.0%	48.8%	0.0%	0.8%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	99.0%	81.6%	2.9%	1.0%	26.2%	54.4%	2.9%	0.0%

③ 家族構成

二人親家庭の二世帯世帯が、中学2年生・中等教育学校前期課程2年生(以降、中学生)で81.6%、中等教育学校後期課程5年生(以降、高校生)で74.8%と大半を占めた。全国調査²⁾では、それぞれ70.1%、61.6%であり、10%前後の開きが認められた。

三世帯世帯は2.4%、2.9%と、全国調査²⁾の12.8%、15.8%に比して顕著に低かった。

図表 31：家族構成

	家族構成					
	二世帯世帯	ひとり親家庭	三世帯世帯(二人親)	三世帯世帯(ひとり親)	その他	無回答
中学2年生・中等教育学校前期課程2年生(n=125)	81.6%	12.8%	2.4%	2.4%	0.0%	0.8%
中等教育学校後期課程5年生(n=103)	74.8%	19.4%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%

※その他の自由記載：叔父、甥

④ 健康状態

健康状態については、「よい」が中学生で56.0%、高校生で57.3%と最も高い。中学生、高校生ともに、「よい」と「まあよい」を合わせて約80%であった。全国調査²⁾では、中学生76.3%、高校生67.3%であり、全国に比して、特に高校生の健康状態が良いことが示された。

図表 32：健康状態

	健康状態				
	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
中学2年生・中等教育学校前期課程2年生(n=125)	56.0%	24.0%	13.6%	4.0%	2.4%
中等教育学校後期課程5年生(n=103)	57.3%	23.3%	13.6%	5.8%	0.0%

(2) 普段の生活について

① 学校への通学状況：出欠状況

出欠の状況は、「ほとんど欠席しない」が中学生、高校生ともに最も高かった。全国調査²⁾では、中学生 82.6%、高校生 74.3%であり、全国に比して、特に高校生で高いことが示された。

図表 33：出席状況

	学校を欠席するか		
	ほとんどしない	たまにする	よくする
中学 2 年生・ 中等教育学校前期課程 2 年生 (n=125)	83.2%	13.6%	3.2%
中等教育学校後期課程 5 年生 (n=103)	84.5%	12.6%	2.9%

② 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が中学生、高校生ともに最も高かったが、中学生、高校生ともに、全国調査¹⁾に比して、「ほとんどしない」(全国調査²⁾中学生 88.8%、高校生 83.5%)が低く、「たまにする」(全国調査²⁾中学生 8.7%、高校生 13.7%)、「よくする」(全国調査²⁾中学生 2.4%、高校生 2.6%)が高かった。

図表 34：遅刻や早退の状況

	学校に遅刻したり早退したりするか		
	ほとんどしない	たまにする	よくする
中学 2 年生・ 中等教育学校前期課程 2 年生 (n=125)	80.0%	14.4%	5.6%
中等教育学校後期課程 5 年生 (n=103)	67.0%	21.4%	11.7%

③ 部活動（学校外での活動を含む）への参加状況

部活動などへの参加状況は、中学生、高校生ともに「参加している」が8割を超えており、いずれも全国調査²⁾（中学生 87.9%、高校生 74.1%）に比して高かった。

図表 35：部活動への参加状況

	部活動に参加しているか	
	参加している	参加していない
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	92.0%	8.0%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	86.4%	13.6%

④ 普段の学校生活などであてはまること

普段の学校生活などであてはまることについて、中学生では「特にない」が46.4%と最も高かった。次いで、「提出物を出すのが遅れることが多い」「持ち物の忘れ物が多い」「授業中に居眠りすることが多い」「宿題などができていないことが多い」が多く20%前後となっており、全国調査²⁾では12～14%であることから、全国に比して高いことが示された。

高校生では、「授業中に居眠りすることが多い」が53.4%と最も高く、次いで「宿題などができていないことが多い」「提出物を出すのが遅れることが多い」「特にない」「持ち物の忘れ物が多い」の順であった。全国調査²⁾では、「特にない」(42.9%)、「授業中に居眠りすることが多い」(39.7%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(15.3%)の順であり、傾向が異なることが示された。

図表 36：普段の学校生活などであてはまること（複数回答）

	普段の学校生活などの状況										
	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	おしゃべりしたり、時間が少ない	友人と遊んだり、時間が少ない	特にない
中学2年生・ 中等教育学校 前期課程2年生 (n=125)	19.2%	18.4%	22.4%	8.8%	24.0%	0.8%	0.8%	8.8%	7.2%	46.4%	4.0%
中等教育学校 後期課程5年生 (n=103)	53.4%	37.9%	25.2%	9.7%	33.0%	1.0%	1.0%	6.8%	9.7%	26.2%	3.9%

⑤ 現在の悩みごと

現在の悩みごとについては、中学生、高校生ともに、「特にない」が最も高く、いずれも全国調査²⁾ (41.0%、27.4%) に比して顕著に高かった。また、中学生では、全国調査²⁾ と比べて「学業成績のこと」(24.8%)、「進路のこと」(12.0%) が低いことが特徴的であった。(全国：33.7%、37.2%)。高校生では、全国調査²⁾ と比べて「自分と家族との関係のこと」(12.6%) が高いことが特徴的であった。(全国：5.9%)。

図表 37：現在の悩みごと（複数回答）

	悩みごとの内容												
	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	塾（通信含む）や習い事ができない	家庭の経済状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない	無回答
中学2年生・中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	14.4%	24.8%	12.0%	12.0%	3.2%	3.2%	4.8%	6.4%	2.4%	1.6%	5.6%	68.8%	0.0%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	10.7%	37.9%	46.6%	13.6%	6.8%	1.9%	7.8%	12.6%	5.8%	1.9%	3.9%	48.5%	1.0%

⑥ 悩みごとについて話を聞いてくれる人の有無

前問で何らかの悩みごとがあると回答した人に、話を聞いてくれる人の有無を問うたところ、中学生、高校生ともに、「いる」が最も高かったが、全国調査²⁾ では、中学生 72.4%、74.6%であり、中学生では、全国に比して相談できる人が「いる」が低かった。

図表 38：悩みごとについて話を聞いてくれる人の有無

	相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人		
	いる	いない	相談や話しはしたくない
中学2年生・中等教育学校前期課程2年生 (n=39)	59.0%	12.8%	28.2%
中等教育学校後期課程5年生 (n=53)	75.5%	3.8%	20.8%

(3) 家庭や家族のことについて

① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族について、中学生は5.6%が「いる」と回答し、全国調査²⁾(5.7%)と同様であった。一方、高校生の「いる」(1.9%)は、全国調査²⁾(4.1%)に比して低かった。

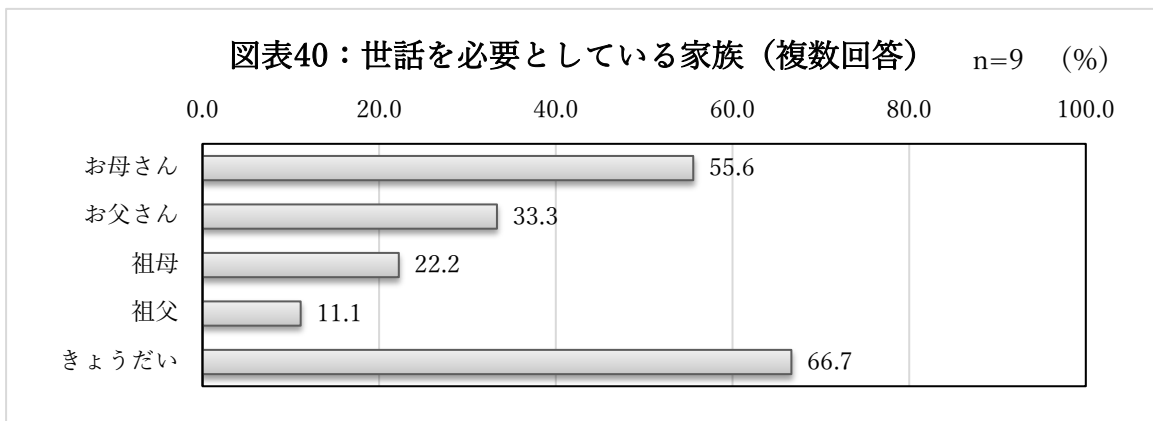
なお、中学生、高校生で「いる」と回答した人数は、合計9人と少なかったため、次問以降の「世話をしている家族がいる人」の分析は、中学生、高校生を合わせて行う。

図表 39：世話をしている家族の有無

	世話をしている家族	
	いる	いない
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	5.6%	94.4%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	1.9%	98.1%

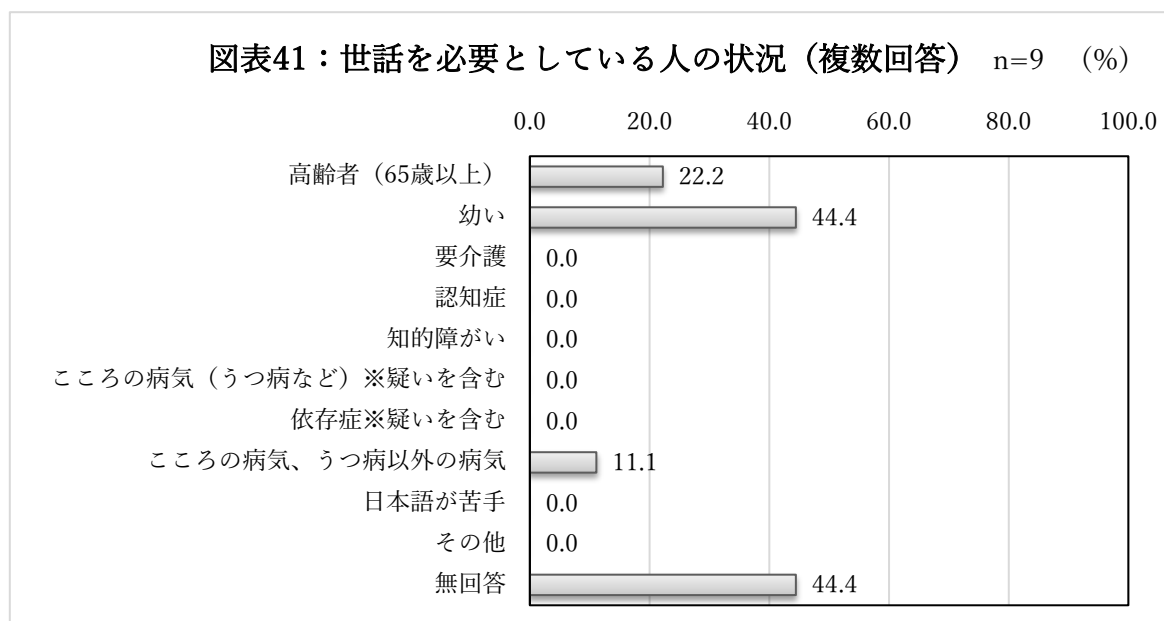
② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、「きょうだい」が66.7%と最も高く、次いで「母親」が55.6%、「父親」が33.3%となっている。全国調査¹⁾と同様の順位であるが、全国調査²⁾では、「父母」は中学生で23.5%、高校生で29.6%であることから、「母親」と「父親」が顕著に高いという特徴が認められた。



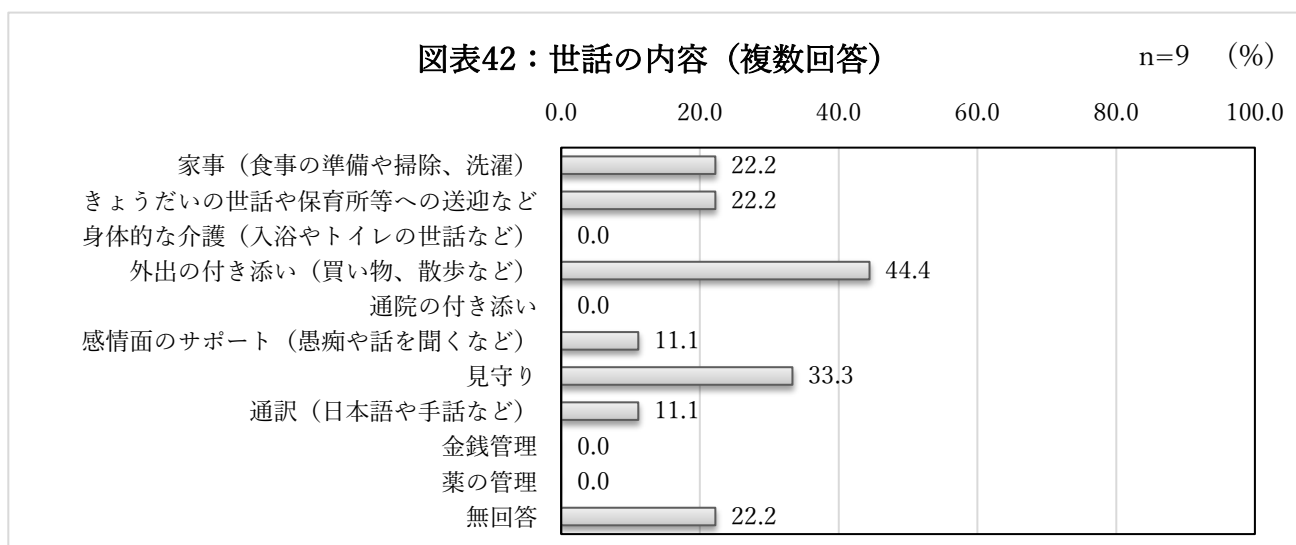
③ 世話を必要としている家族の状況

世話を必要としている家族の状況としては、「若い」と「無回答」が44.4%と最も高かった。世話を必要としている家族が「母親」「父親」である場合に「無回答」が多く、「母親」と「父親」が世話を必要とする状況について、適切な選択肢が存在しなかった可能性が考えられる。



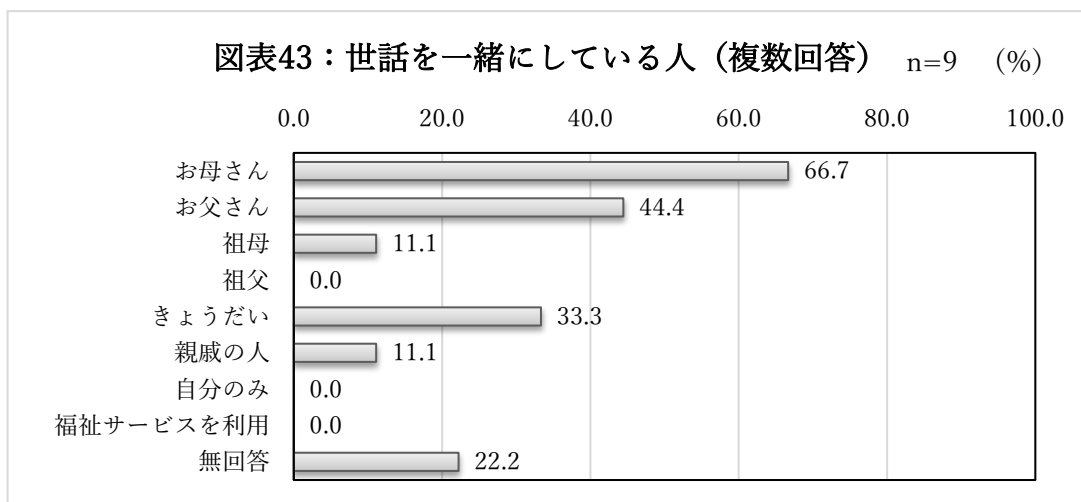
④ 世話の内容

世話をしている家族がいると回答した人に、世話の内容について問うたところ、「買い物や散歩にいっしょに行く」が44.4%と最も高く、次いで「見守り」が33.3%であった。



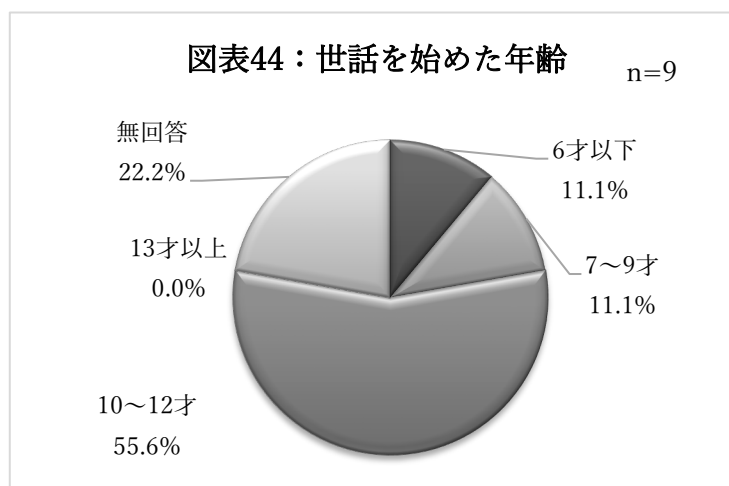
⑤ 世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、「母親」が66.7%と最も高く、全国調査²⁾と同様であった。



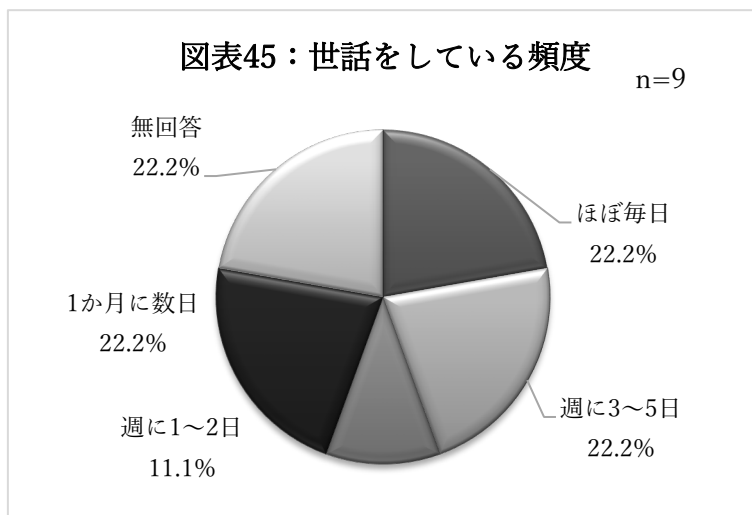
⑥ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢は、「10～12歳」が55.6%と最も高かった。全国調査²⁾では、中学生は小学生高学年が34.2%、高校生では中学生以降が37.8%で最も高く、概ね同様の傾向が示された。



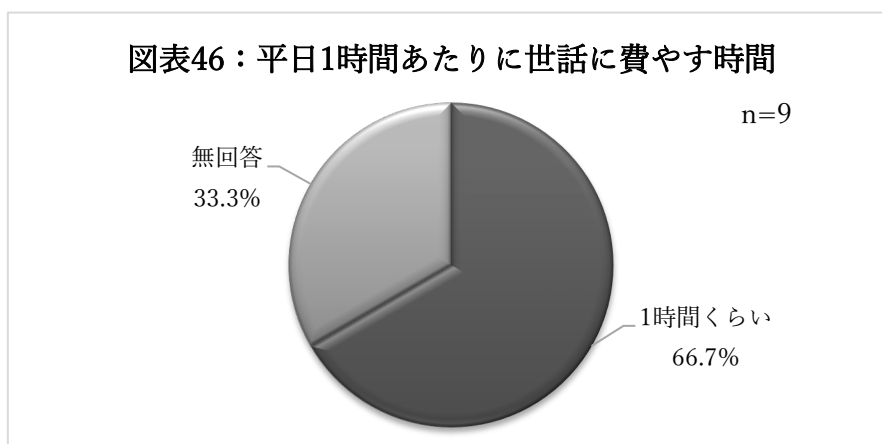
⑦ 世話をしている頻度

世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」、「週に3～5日」「1か月に数日」が22.2%であった。全国調査²⁾では「ほぼ毎日」が45%強であり、全国に比して世話をしている頻度は低くなっていた。



⑧ 平日1日あたりの世話を費やす時間

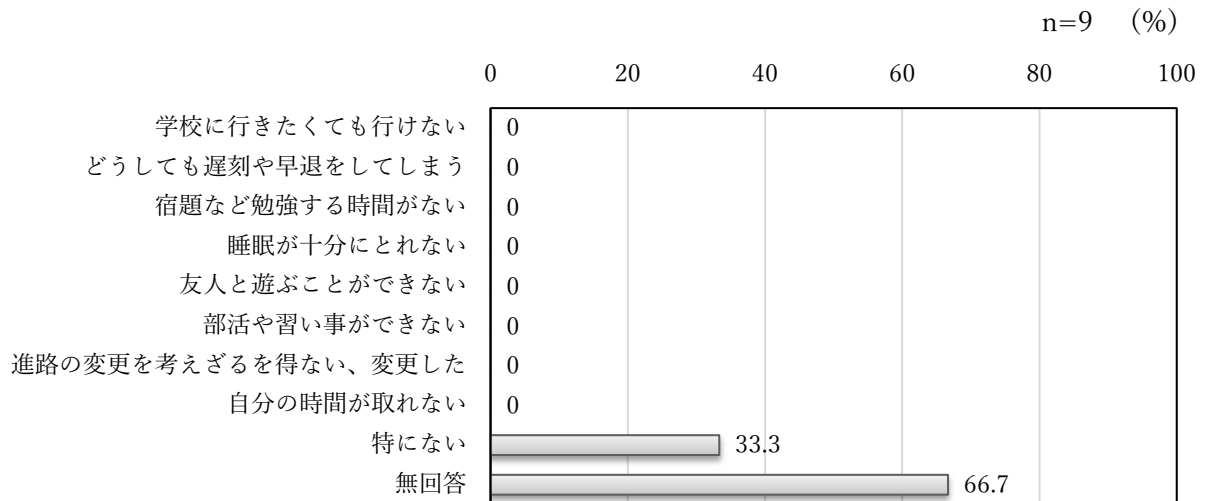
平日1日あたりに世話を費やす時間については、「1時間くらい」が66.7%と最も高かった。全国調査²⁾では、中学生の平均は4.0時間、高校生の平均は3.8時間であり、全国に比して世話を費やす時間は短いことが示された。



⑨ 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

世話をしているためにやりたいけれどできていないことについては、「無回答」が66.7%、「特にな
い」が33.3%であり、他の選択肢は0%であった。

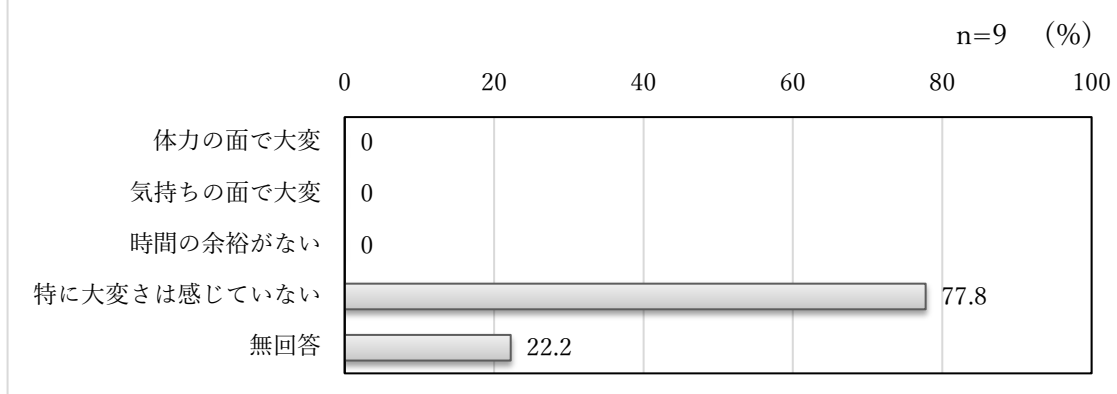
図表47：世話をしているためやりたいけれどできないこと（複数回答）



⑩ 世話をすることに感じているきつさ

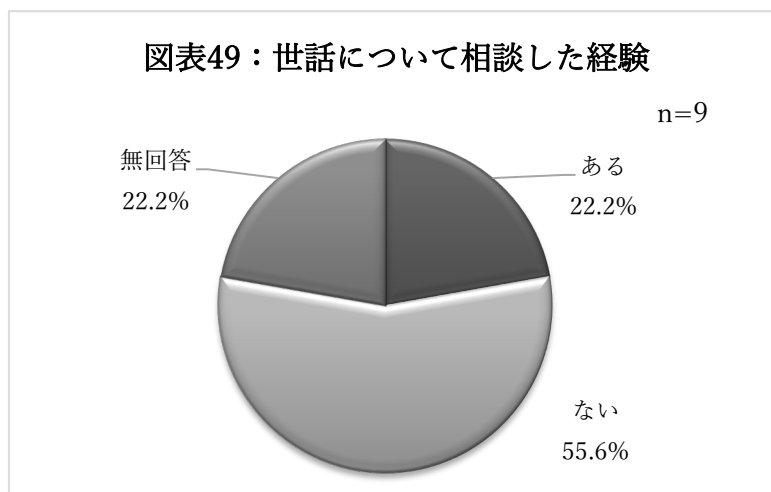
世話をすることに感じるきつさは、「特にきつさは感じていない」が77.8%、「無回答」が22.2%で
あり、他の選択肢は0%であった。

図表48：世話をすることに感じているきつさ（複数回答）



⑪ 世話について相談した経験

世話について相談した経験は、「ない」が 55.6%を占め、全国調査²⁾と同様の傾向を示した。



⑫ 世話についての相談相手

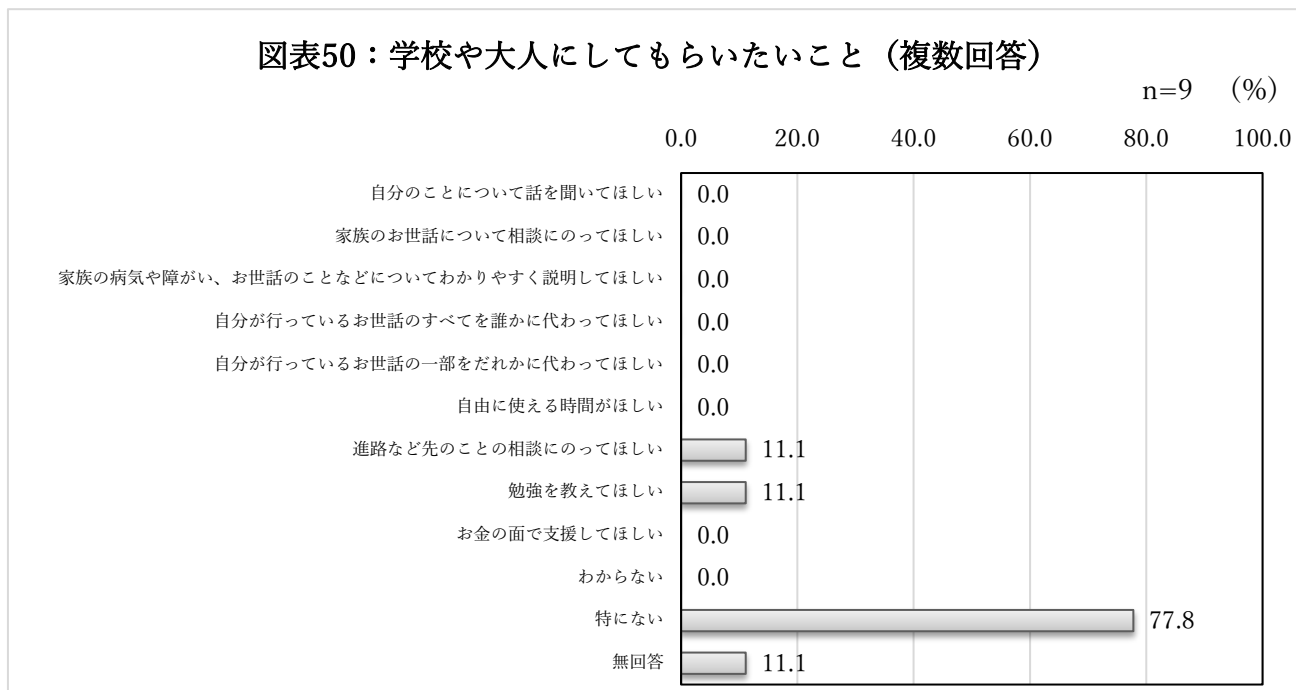
世話について相談したことがある人は 2 名であり、その相談相手は、「家族」が 1 名、「友人」が 1 名であった。

⑬ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した 5 人に、その理由について聞いたところ、「相談するほどの悩みではないから」が 3 人、「無回答」が 2 人であった。

⑭ 学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、「特にない」が77.8%と最も高く、その他では「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「学校の勉強や受験勉強などの学習サポート」が選択されたのみであった。



(4) ヤングケアラーについて

① ヤングケアラーの自覚

「自分はヤングケアラーにあてはまると思うか」と問うたところ、「あてはまる」の回答は高校生で1.0%、中学生では0%であった。(全国調査²⁾：中学生 1.8%、高校生 2.3%)

図表 51：ヤングケアラーの自覚

	「ヤングケアラー」にあてはまるか。		
	あてはまる	あてはまらない	わからない
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	0.0%	89.6%	10.4%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	1.0%	92.2%	6.8%

② 「ヤングケアラー」概念の認知度

「ヤングケアラーという言葉聞いたことがあるか」問うたところ、中学生、高校生ともに「聞いたことがあり、内容も知っている」が5割を超えていた。(全国調査²⁾:中学生6.3%、高校生5.7%)
一方、「聞いたことがない」は中学生20.0%に対し、高校生は35.9%と高かった。(全国調査²⁾:中学生84.2%、高校生86.8%)

図表 52：ヤングケアラーの認知度

	ヤングケアラーの認知度		
	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 よく知らない	聞いたことはない
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	56.8%	23.2%	20.0%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	53.4%	10.7%	35.9%

③ ヤングケアラーのために必要だと思うこと

「ヤングケアラーのために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいこと」についての自由記述について、一部編集の上、以下に示す。

図表 53：ヤングケアラーのために必要だと思うこと（自由記述）

【大人に相談する・相談しやすくする】

気軽に相談できるようにする

気軽に相談できる機関の普及

ヤングケアラーの人専門の相談場所を作る。

ヤングケアラーをケアする電話窓口を作る

家族以外にもそのことについて相談できるような地域セミナーを開催する。そして、対応を説明する。

困った時に子供から相談しやすい環境を作ることが大切だと思いました。

相談したらすぐに周りの大人が動いてくれる仕組みづくり

相談しやすいような環境をつくる。

相談しやすい場所をつくる。児相などに悪いイメージをもたせない

相談できる場所を作る

相談できる友達と大人

相談に乗ってあげる

相談の受け口を増やすこと

相談窓口の増設、認知

相談窓口をより分かりやすいものにする

本人の気持ちを知り、相談にのることが必要だと思う。

周りの人の助け、相談しやすい環境

助けを求められる存在をつくる

直接会うことはしなくても、親などのケアをしている子供たちが困りごとなどを相談できる環境を作るべきだと思う

【友人、学校など周りの人が気づくこと】

学校のできる限り先生が家庭のことをきづいてほしい。

本人は自分から言わないこともあると思うので、周りの人がヤングケアラーの人に気づくことが必要だと思う。

【実態を把握し支援につなげる】

ヤングケアラーの実態を知り、一人一人の自由を保障する必要があると思う。そのためにも子供が声をあげられる環境、電話相談などをつくり、支援出来ればいいと思う。

まわりがちゃんと理解してあげること。理解をすれば何をすればいいのかわかるはず。

定期的に各家庭の環境状況などのアンケートを取り、ヤングケアラーの家庭を把握する

学校でのアンケート調査

学校などで頻繁にアンケートをとるなどして、子供だけがこの問題を背負わないようにする。

学校や自治体による実情を知るための調査が必要。その後対策計画を打ち出していくべき

こういったアンケートや、カウンセラーなどの対面を増やしていけばいいと思う

アンケートだけでなくクラスの担任も生徒の様子を把握しておいて児相にこまめに相談する

家庭のことだからとかかわらないようにするのではなく、学校や行政が積極的に支援していくべき。

話を聞く

【ピアサポート】

ヤングケアラーの学生が相談や質問をし合える集まりなどを増やすこと

ヤングケアラーの子供自身に、似たような状況の人がいるということと、子供自身がケアをしていくこと以外にも選択肢があるということを知ってもらい安心してもらう必要があると思う。そのために、ヤングケアラーの子供が集まれる会や、ヤングケアラーについてたくさんの人に説明する機会を増やしていくべきだと思う。そして、ヤングケアラーの子供はケアをすることを嫌なことだと思っていない場合もあると思うため、ヤングケアラーの子供がいるのは良くないと決めつけるのではなく、その子の考えもしっかり聞いてあげる機会も設ける必要があると思う。

【子どもの負担を軽減する】

ヤングケアラーの人のお手伝いなどを積極的にした方が良くと思います。

子供に頼りすぎないこと

テスト2週間前は他の誰かが代わりにやる

ヤングケアラーがいる家庭に大人が手伝いに行く

行政のサービスを認知してもらう

周りに頼れるような施設を作る。

子供でもできる料理器具を売る

【やりたいことができるようにしてあげる】

若い人の可能性をつぶしてはいけないと思うので、本人の希望する時間の使い方ができるように、援助してあげるべきだと思う。

自分のやりたいことをするのは大事だと思います

ヤングケアラーでなかなか勉強ができない場合、少しあいている時間に勉強できるようにする

【ヤングケアラーについての啓発活動】

「ヤングケアラー」についてもっと知ることが必要だと思う。

「ヤングケアラー」を多くの人に知ってもらう

テレビなどで広める

自分はCMでヤングケアラーについて知ったから、そういう発信を続ける

まず、沢山のの人に認知してもらうことが大切だと思う。

実態の周知

世間の認識の拡大

ヤングケアラーそのものの実態を広く周知させることに加えて、基金を募るなどで支援を広げていけると思う

ヤングケアラーという言葉の認知度を高める。ヤングケアラーへの支援があることを認知させる。

ヤングケアラーという単語を広める。

ヤングケアラーについて子供にも大人に対しても認識を広めること。

ヤングケアラーについて知る機会が必要だと思います

ヤングケアラーの知識をもっとたくさんの人に教える

ヤングケアラーの認知度を上げる。

ヤングという言葉の意味を広めること、

学校など身近な場面でヤングケアラーについて知る機会を増やす

学校の授業で深く扱う

授業で取り扱う

もっと家庭科などで扱うべきだと思う。

学校の保健や道徳の授業で扱う

教科書に載せるなどして学ぶ

子供への認知

子供への認知度をあげる。

自分がヤングケアラーだと自覚していない人に、ヤングケアラーであることを知ってもらい、支援を受けてもらう。

自分がヤングケアラーだと認知していない子供に支援があることをわかってもらうために、授業などで知ってもらう

知ること知らせること。実際この質問の中でヤングケアラーについて知っている知っていないではなく、みんな知っていることが望ましいと思っているからだ。だからこそ、みんなが知っているそれを共有できることが大切だと思う。

【国などが対策を立てる】

ヤングケアラーが助けを必要としているならば、国が、資格を持っている介護士を無償で派遣すべき。

ヤングケアラーに対する、自治体の支援。勉強面や金銭的な面からも支援を拡充していくべきだと思う。

公的相談を24時間引き受けること、場合によっては強硬手段も辞さない姿勢が必要だと思う。

子供をヤングケアラーにさせることを虐待として扱い児相とか第3の機関が介入する。ヤングケアラーの定義より、虐待とみなして問題ないと思う。

児相の対応の良化。せめて法的に権利を持たせるべきでは

存在を知ってもらって、公的な支援を増やす

国からの支援、給付

国や行政の支援

【介護や子育ての支援を充実させる】

病院などで介護が必要な人に介護をできる人がいるか確認を取り、いない場合自治体が対応をとる。

老人ホームの費用を減らす

ホームヘルパーさんにもっと簡単に来てもらえるようにする。

介護施設にはいりやすくする

介護施設への入所を容易にする仕組みが必要だと思う。

介護職を雇って少しでも「ヤングケアラー」の負担をなくすために、保険制度の拡充などをする。

子供がいる世帯で特別な事情がある人々への支援の体制を強化すること。

保育所を増やす

施設を増やす。

【金銭的に援助する】

周りが理解することや家庭への金銭的支援

お金の支援

お弁当をあげる

ご飯の提供

金銭的支援、施設を作る

子供を持つ大人への補償を手厚くする

正直、年金なくして支援金という形で貧乏なお年寄りだけにしておちを年金同じように配れば良いと思う。

支援金を増やす

補助金

募金

【その他】

親の押し付け教育の概念が古いのでそういった概念を捨てさせることだと思う。

聞き取り調査をしたなら動いて欲しい

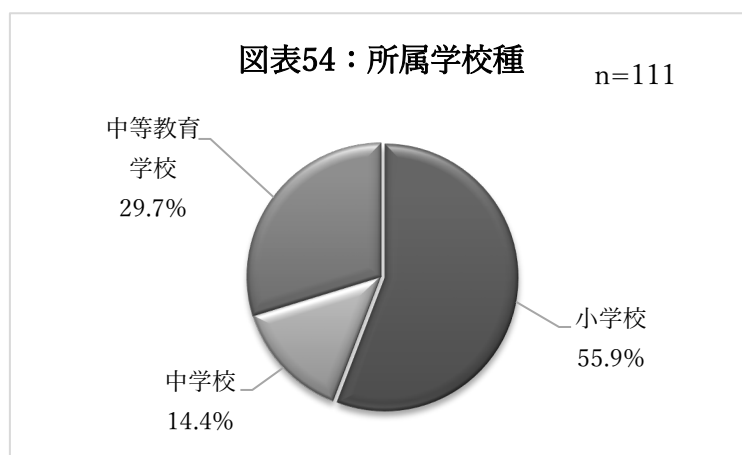
3. 教員調査の結果

(1) 基本情報

① 所属学校種

回答者の所属学校種は以下の通り。小学校 62 名、中学校 16 名、中等教育学校（前・後期課程）33 名であった。

以降、中学校、中等教育学校（前・後期課程）を合わせて「中学校・高校」と表記する。



② 性別

回答者の性別は以下の通りであった。

図表 55：性別

	性別		
	男性	女性	答えたくない
小学校 (n=62)	43.5%	54.8%	1.6%
中学校・高校 (n=49)	63.3%	34.7%	2.0%

③ 職種・職位

回答者の職種・職位は以下の通りであった。

図表 56：職種・職位

	職種・職位								
	校長	副校長	指導・主幹・ 教諭	主任教諭	教諭	養護教諭（主幹・ 主任を含む）	スクールソーシャル ワーカー	その他	無回答
小学校 (n=62)	4.8%	6.5%	11.3%	41.9%	27.4%	4.8%	1.6%	1.6%	0.0%
中学校・高校 (n=49)	2.0%	2.0%	4.1%	49.0%	36.7%	0.0%	4.1%	0.0%	2.0%

※その他の自由記載：特別支援教育専門員

(2) 認知したヤングケアラーの状況について

① 「ヤングケアラー」概念の認知度

「ヤングケアラー」「ケアを担う子ども」などの言葉を聞いたことがあるか問うたところ、小学校、中学校・高校ともに、9割以上が「ある」と回答した。

全国調査^{1) 2)}における学校調査は、教員個人を対象としたものではなく、学校全体の状況を回答する形式となっており、単純比較はできないが、「ヤングケアラー」概念の認知度は、小学校で9割、中学校・高校で8割弱であった。但し、中学校・高校の調査は令和2（2020）年度である。

図表 57：ヤングケアラーの認知度

	「ヤングケアラー」「ケアを担う子ども」などの言葉を聞いたことがあるか	
	ある	ない
小学校 (n=62)	90.3%	9.7%
中学校・高校 (n=49)	91.8%	8.2%

② ヤングケアラーと感じた児童・生徒の有無（2017年度から現在まで）

2017年度から現在までに関わっている児童・生徒の中で、家族のケアをしているのではないかと感じた児童・生徒がいたか問うたところ、小学校、中学校・高校ともに、5割強が「いた、いる」と回答した。

図表 58：ヤングケアラーと感じた児童・生徒の有無（2017年度から現在まで）

	2017年度から現在まで：ヤングケアラーと感じた児童・生徒		
	いた、いる	いなかった、いない	わからない
小学校 (n=62)	54.8%	30.6%	14.5%
中学校・高校 (n=49)	57.1%	26.5%	16.3%

③ ヤングケアラーと感じた児童・生徒の数（2017年度から現在まで）

2017年度から現在までに関わっている児童・生徒の中で、家族のケアをしているのではないかと感じた生徒の数は、小学校では1人が最も高く、中学校・高校では2～3名が最も高かった。

図表 59：ヤングケアラーと感じた児童・生徒の数（2017年度から現在まで）

	2017年度から現在まで：ヤングケアラーと感じた児童・生徒の人数				
	1人	2～3人	4～5人	6人以上	無回答
小学校 (n=62)	55.9%	32.4%	2.9%	8.8%	0.0%
中学校・高校 (n=49)	32.1%	50.0%	3.6%	7.1%	7.1%

④ 千代田区立の学校でヤングケアラーと感じた児童・生徒の数（2017年度から現在まで）

前問の回答では、千代田区外の学校に在任中の生徒の数が含まれている可能性があるため、そのうち千代田区立の学校の児童・生徒の数は何人か確認しところ、小学校、中学校・高校ともに1名が最も高かった。

図表 60：千代田区でヤングケアラーと感じた児童・生徒の数（2017 年度から現在まで）

	2017 年度から現在まで：ヤングケアラーと感じた児童・生徒の人数 (千代田区立学校)					
	0 人	1 人	2～3 人	4～5 人	6 人以上	無回答
小学校 (n=62)	29.4%	38.2%	23.5%	5.9%	0.0%	2.9%
中学校・高校 (n=49)	42.9%	35.7%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%

⑤ 千代田区立の学校でヤングケアラーと感じている児童・生徒の数（現在）

さらに前問の回答のうち、現在家族のケアをしているのではないかと感じている児童・生徒の数を問うたところ、小学校、中学校・高校ともに 0 名が 6 割弱と最も高く、次いで 1 人となっていた。

なお、全国調査^{1) 2)}において、ヤングケアラーに該当すると思われる児童・生徒が「いる」と回答した学校は、小学校 34.1%、中学校 46.6%、高校 49.8%であった。

図表 61：千代田区でヤングケアラーと感じている児童・生徒の数（現在）

	現在：ヤングケアラーと感じている児童・生徒の人数 (千代田区立学校)					
	0 人	1 人	2～3 人	4～5 人	6 人以上	無回答
小学校 (n=62)	58.8%	23.5%	8.8%	2.9%	0.0%	5.9%
中学校・高校 (n=49)	57.1%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%

⑥ ヤングケアラーと感じる児童・生徒の家族の世話の内容

2017 年度から現在までに関わっている児童・生徒の中で、家族のケアをしているのではないかと感じた者の、家族の世話の内容について問うたところ、小学校、中学校・高校ともに「幼いきょうだいの世話」が最も高く、特に小学校では 8 割近くが該当した。中学校・高校では、これに「障害や病気のある家族の代わりに家事」が続いた。小学校では、「障害や病気のある家族の代わりに家事」と「目を離せない家族の見守りや声掛け」が 2 番目に高かった。

全国調査^{1) 2)}においては、小学校と中学校では、同様に「幼いきょうだいの世話」が最も高く、ともに 79.8%で突出していたが、高校では「幼いきょうだいの世話」の 70.2%に次いで、「家計を支えるために、アルバイト等をしている」が 64.5%と高くなっている。

図表 62：ヤングケアラーと感ずる児童・生徒の家族の世話の内容（複数回答）

	家族の世話の内容									
	障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている	家族に代わり、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	目を離せない家族の見守りや声掛けをしている	家族の通訳をしている	家計を支えるために、アルバイト等をしている	アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	病気の家族の看病をしている	障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	無回答
小学校 (n=62)	20.6%	76.5%	11.8%	20.6%	17.6%	0.0%	11.8%	11.8%	17.6%	0.0%
中学校・高校 (n=49)	28.6%	60.7%	10.7%	3.6%	10.7%	3.6%	17.9%	10.7%	7.1%	3.6%

⑦ ヤングケアラーと感ずる児童・生徒への家族の世話による影響

2017年度から現在までに関わっている児童・生徒の中で、家族のケアをしているのではないかと感ずた者の、家族の世話による影響について問うたところ、小学校では「宿題をしてこない」が52.9%で最も高く、「忘れ物」「遅刻」も4割を超えていた。中学校・高校では「遅刻」が60.7%と最も高く、これに「欠席」「学業不振」(39.3%)が続いた。

図表 63：ヤングケアラーと感ずる児童・生徒への家族の世話による影響（複数回答）

	家族の世話による影響											
	遅刻	早退	欠席	忘れ物	宿題をしてこない	学業不振	衛生不良	栄養不良	部活など課外活動ができない	友達やクラスメイトとの関係がおもわしくない	影響はない	その他
小学校 (n=62)	44.1%	0.0%	29.4%	47.1%	52.9%	26.5%	17.6%	14.7%	0.0%	23.5%	11.8%	5.9%
中学校・高校 (n=49)	60.7%	10.7%	39.3%	17.9%	21.4%	39.3%	17.9%	7.1%	3.6%	7.1%	14.3%	0.0%

※その他の自由記載：心理的負担、怒りっぽい・イライラしている

⑧ 児童・生徒がヤングケアラーであることに気づいた経緯

児童・生徒が家族のケアをしていることに気づいた経緯としては、小学校では「他の教員から情報提供があったから」が 50.0%で最も高く、「前問にあるような学校生活への影響が出ていたから」が 44.1%と続いていた。中学校・高校では「前問にあるような学校生活への影響が出ていたから」が 53.6%と最も高く、これに「本人から相談を受けたから」「他の教員から情報提供があったから」(32.1%)が続いた。

図表 64：児童・生徒がヤングケアラーであることに気づいた経緯（複数回答）

	ヤングケアラーであることに気づいた経緯						
	前問にあるような学校生活への影響が出ていたから	本人から相談を受けたから	本人以外の児童・生徒から相談を受けたから	他の教員から情報提供があったから	学外の機関などから情報提供があったから	その他	無回答
小学校 (n=62)	44.1%	32.4%	2.9%	50.0%	17.6%	8.8%	2.9%
中学校・高校 (n=49)	53.6%	32.1%	3.6%	32.1%	21.4%	14.3%	3.6%

※その他の自由記載：担任しているきょうだいの様子を見て感じた、三者面談の場で、本人との雑談進学相談にあたり、本人から家庭の状況を聞き取った際、生徒との雑談の中で

⑨ ヤングケアラーと思われる児童・生徒と関わる上で、困ったこと

ヤングケアラーと思われる児童・生徒関わる上で困ったことについての自由記載について、一部編集の上、以下に示す。

図表 65：ヤングケアラーと関わる上で困ったこと（自由記述）

<p>【本人が支援を求めている】</p> <p>なかなか自分が困ってると言うことができない。親が責められると思っているのか、周りに頼れず自分が我慢すれば頑張ればいいと思っているので、支援が入りにくい。</p> <p>児童本人の困り感について親と話してほしくないという訴えもあった。A児はより親に負担がかかるのが嫌だから自分が我慢する、B児は学校から連絡があると親に怒られるから、という理由であった。</p> <p>本心は話さない。家族をかばう。攻撃的</p> <p>本人に困り感がない場合がある</p>

本人の理解
<p>【親が支援を受け入れない】</p> <p>SSW などにつなげたが、家族が家に来ることを拒否することがあった。</p>
<p>【実情の把握・理解が難しい】</p> <p>実態の正確な把握</p> <p>家庭でのことがよく見えない</p> <p>長期休暇中の様子が分からない。</p> <p>生徒が置かれている状況を理解するまでに時間がかかる。生徒の説明もままならなかったり、保護者と連絡が取りづら いというのも原因として挙げられる。</p> <p>家事の手伝いをしている程度なのか、それが過度な負担になっているのか判断が難しい。</p>
<p>【教員が関わる範囲の判断が難しい】</p> <p>家庭の問題にどこまで教員が踏み込んでいいのかわからない。</p> <p>どこまで踏み込んで話をすればよいか戸惑うことが多い</p> <p>教員としてどこまで関わるべきか困った。</p>
<p>【教員単独で解決できる問題ではない】</p> <p>本質的な解決に向けて、自身に何ができるかが分からなかった。その都度の声掛けや保護者との対話は試みたが、一時 的なものに過ぎなかったのでは…と感じた。</p> <p>状況を改善するのは難しいこと。</p> <p>兄弟に対する愚痴を言うてくるが、話を聞き、労うぐらいしかできないこと</p> <p>状況にもよるが、全体的に家庭の養育能力が低い。また、福祉等の手続きが分からない等の理解能力に問題のある保護 者が多い。</p> <p>教員の介入の限界</p>
<p>【通常の教育活動の中で本人への対応に配慮を要する】</p> <p>家族についての話をしにくい。道徳等での家族愛、勤労に関しての授業を考えるとき。</p> <p>洋服の汚れ、洋服の匂い等衛生面で周りの児童が担任に言いに来た時の対応。</p> <p>家族のために頑張る反面、学校の宿題をやって来なかったが、事情を知ってる分指導をどうしたらいいか悩んだ。</p>
<p>【親が保護者の役割を果たしてくれなくて困る】</p> <p>教材費や給食費の徴収</p> <p>保護者に学校の状況を伝えられない</p>

⑩ ヤングケアラーと思われる児童・生徒を外部の支援につないだケース

ヤングケアラーと思われる児童・生徒を外部の支援につないだケースが「ある」との回答は、小学校、中学校・高校ともに、5割以上であった。

図表 66：外部の支援につないだケース

	外部の支援につないだケース		
	ある	ない	無回答
小学校 (n=62)	50.0%	47.1%	2.9%
中学校・高校 (n=49)	57.1%	42.9%	0.0%

⑪ ヤングケアラーと思われる児童・生徒をつないだ外部の支援先

ヤングケアラーと思われる児童・生徒を外部の支援先につないだケースが「ある」と回答した人に、つないだ支援先の具体名を記載してもらった。つないだ外部の支援先としては、小学校、中学校・高校ともに「子ども家庭支援センター」が最も多く、それぞれ7件、12件であった。小学校では、「児童相談所」も多く、5件の記載があった。

図表 67：つないだ外部の支援先（自由記載）

つないだ外部の支援先	学校種（記載件数）	
	小学校	中学校・高校
子ども家庭支援センター	7	12
児童相談所	5	1
区役所福祉関係部署	1	1
子どもの居場所・ボランティア	1	1
教育相談	1	1
スクールソーシャルワーカー	0	2
スクールカウンセラー	2	0

⑫ ヤングケアラーと思われる児童・生徒が外部の支援につながらなかった理由

ヤングケアラーと思われる児童・生徒を外部の支援先につないだケースが「ない」と回答した人に、外部の支援につながらなかった理由についての自由記載について、一部編集の上、以下に示す。

図表 68：外部の支援につながらなかった理由（自由記載）

<p>【深刻度が低いと考えたため】</p> <p>そこまでではなかったから。</p> <p>そこまでの深刻さはなかったから</p> <p>そこまで大きな影響を感じなかったため</p> <p>どうも一時的なものだったようなので。</p> <p>外部の支援が必要なレベルではなかった。</p> <p>軽度だったから。</p> <p>支援につなげるほどの負担を感じなかったため。</p> <p>深刻度がそれほどでもない。本人がそれほど意識していない。</p> <p>短期間で児童の生活の様子に改善が見られたから。</p> <p>家族間内で対応しているため。</p> <p>最低限の学校生活を送っていたため</p>
<p>【本人が望まなかったため】</p> <p>本人がそれを望まなかったから。</p> <p>本人から家族についての悩みなどが全く出ないため。</p> <p>本人が拒否したから</p> <p>本人が困り感を持っていなかった。</p> <p>本人の困り感がそこまで大きくなかったから</p> <p>親子共に介入への拒否がある</p>
<p>【親が望まなかったため】</p> <p>母親が許可しなかったため</p> <p>親子共に介入への拒否がある</p> <p>そのような家庭の方針だったため</p> <p>拒絶された</p>
<p>【親との関係構築の段階であったため】</p> <p>保護者との関係性がまだ構築できていなかったため</p>
<p>【力になってくれる外部機関がなかったため】</p> <p>外部組織が不明、形だけ相談にのるだけ、役に立たない</p> <p>当時の環境で適切な外部機関が近くになかったため。</p>

⑬ ヤングケアラーと思われる児童・生徒を支援する上での課題

ヤングケアラーと思われる児童・生徒を支援する上での課題としては、小学校、中学校・高校ともに、「家庭のことで問題が表に出にくく、実態の把握がむずかしい」が8割以上で最も高かった。

全国調査¹⁾²⁾において、ヤングケアラーと思われる児童・生徒がいるか「分からない」と回答した学校に、その理由を同項目で尋ねた結果においても、「家庭のことで問題が表に出にくく、実態の把握がむずかしい」が、小学校、中学校・高校ともに8割以上と、最も高かった。

図表 69：ヤングケアラーを支援する上での課題（複数回答）

	ヤングケアラーを支援する上での課題					
	学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	家庭のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他	無回答
小学校 (n=62)	40.3%	37.1%	83.9%	53.2%	1.6%	1.6%
中学校・高校 (n=49)	30.6%	28.6%	85.7%	61.2%	0.0%	0.0%

※その他の自由記載：外部との繋がりが学校しかなく、地域との繋がりが薄い。

⑭ ヤングケアラーを支援するために必要なこと

ヤングケアラーを支援するために必要なこととしては、小学校、中学校・高校ともに、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」(75.8%、81.6%)が最も高く、「教職員がヤングケアラーについて知ること」(66.1%、61.2%)がこれに続いた。小学校では、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」も6割を超えており、「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職の配置が充実すること」「福祉と教育の連携をすすめること」は、小学校、中学校・高校ともに5割を超えていた。

全国調査¹⁾²⁾では、小学校、中学校・高校ともに、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が最も高く8割を超え、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」と「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が7割前後、「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職の配置が充実すること」が6割前後と続いていた。一方、「福祉と教育の連携をすすめること」は、いずれも2割以下であった。

図表 70：ヤングケアラーを支援するために必要なこと（複数回答）

	ヤングケアラーを支援するために必要なこと										
	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	教職員がヤングケアラーについて知ること	学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職の配置が充実すること	子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること	福祉と教育の連携を進めること	無回答
小学校 (n=62)	75.8%	66.1%	35.5%	58.1%	61.3%	22.6%	37.1%	41.9%	29.0%	53.2%	0.0%
中学校・高校 (n=49)	81.6%	61.2%	20.4%	53.1%	42.9%	8.2%	28.6%	40.8%	24.5%	53.1%	2.0%

(3) ヤングケアラー支援の連携先機関の知識・認知

① 家族の状態に応じた相談先の知識

家族の状態に応じた相談先について「知っている」か問うたところ、小学校では「障害や病気のために在宅医療や介護が必要な場合の相談先」「うつ病などの精神疾患がある家族がいる場合の相談先」「親から十分な世話が受けられない子どもがいる場合の相談先」で5割を超えていた。

一方、中学校・高校では「親から十分な世話が受けられない子どもがいる場合の相談先」のみ5割を超えていた。

図表 71：家族の状態に応じた相談先の知識

	家族のケアについての相談先について知っている				
	障がいや病気の ため在宅医療や介護が 必要な場合の 相談先	障がいや病気の ため家事の代行が 必要な場合 の相談先	うつ病などの 精神疾患がある 家族がいる 場合の 相談先	アルコール・薬物・ ギャンブルなどの 問題のある 家族がいる 場合の 相談先	親から十分な世話が 受けられない子どもが いる場合の 相談先
小学校 (n=62)	58.1%	41.9%	50.0%	41.9%	56.5%
中学校・高校 (n=49)	28.6%	22.4%	42.9%	30.6%	57.1%

② 千代田区内の支援機関の認知

(i) 児童・家庭支援センター

児童・家庭支援センターについて、小学校、中学校・高校ともに「サービス内容も知っている」が5割を超え、最も高かった。一方、中学・高校には、1割弱であるが、「名前も知らない」が存在した。

図表 72：千代田区児童・家庭支援センターの認知

	児童・家庭支援センター			
	名前も知らない	名前だけは知っている	サービス内容も少しだけ知っている	サービス内容も知っている
小学校 (n=62)	0.0%	6.5%	37.1%	56.5%
中学校・高校 (n=49)	8.2%	10.2%	28.6%	53.1%

(ii) 社会福祉協議会

社会福祉協議会について、小学校、中学校・高校ともに「名前だけは知っている」が最も高かった。中学校・高校では「名前も知らない」も24.5%存在した。

図表 73：千代田区社会福祉協議会の認知

	社会福祉協議会			
	名前も知らない	名前だけは知っている	サービス内容も少しだけ知っている	サービス内容も知っている
小学校 (n=62)	11.3%	46.8%	27.4%	14.5%
中学校・高校 (n=49)	24.5%	44.9%	20.4%	10.2%

(iii) 地域包括支援センター「高齢者あんしんセンター神田・麴町」

地域包括支援センターについて、小学校、中学校・高校ともに「名前も知らない」が最も高く、それぞれ 51.6%、77.6%となっていた。

図表 74：千代田区地域包括支援センターの認知

	地域包括支援センター「高齢者あんしんセンター神田・麴町」			
	名前も知らない	名前だけは知っている	サービス内容も少しだけ知っている	サービス内容も知っている
小学校 (n=62)	51.6%	30.6%	12.9%	4.8%
中学校・高校 (n=49)	77.6%	14.3%	6.1%	2.0%

(iv) 障害者福祉センター「えみふる」

障害者福祉センターについて、小学校、中学校・高校ともに「名前も知らない」が最も高く、それぞれ 66.1%、73.5%となっていた。

図表 75：千代田区障害者福祉センターの認知

	障害者福祉センター「えみふる」			
	名前も知らない	名前だけは知っている	サービス内容も少しだけ知っている	サービス内容も知っている
小学校 (n=62)	66.1%	21.0%	9.7%	3.2%
中学校・高校 (n=49)	73.5%	18.4%	6.1%	2.0%

(v) 障害者よろず相談窓口「MOFCA（モフカ）」

障害者よろず相談窓口について、小学校、中学校・高校ともに「名前も知らない」が最も高く、それぞれ 79.0%、87.8%となっていた。

図表 76：千代田区障害者よろず相談窓口の認知

	障害者よろず相談窓口「MOFCA（モフカ）」			
	名前も知らない	名前だけは知っている	サービス内容も少しだけ知っている	サービス内容も知っている
小学校 (n=62)	79.0%	17.7%	0.0%	3.2%
中学校・高校 (n=49)	87.8%	4.1%	4.1%	4.1%

4. ケアに対する意識調査の結果

(1) 児童・生徒、教員共通質問項目

① 家族のケアのために自分のことを我慢するのは当たり前か

「家族の中にケアが必要なメンバーがいる場合、ケアのために自分のことを我慢するのは（犠牲にするのは）当たり前だ」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生で30.3%と最も高く、中学生、高校生となるにつれ低下した。

教員では、「そう思う」は1割以下であったが、「まあまあそう思う」も含めて、小学校教員の方が中学校・高校教員より高い傾向にあった。

図表 77：家族のケアのために自分のことを我慢するのは当たり前か（児童・生徒）

	家族の中にケアが必要な人がいる場合、 ケアのために自分のことをがまんするのは当たり前だ。				
	そう思う	まあまあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答
小学校5年生 (n=297)	30.3%	32.0%	17.5%	17.2%	3.0%
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	20.8%	43.2%	20.0%	15.2%	0.8%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	10.7%	45.6%	30.1%	13.6%	0.0%

図表 78：家族のケアのために自分のことを我慢するのは当たり前か（教員）

	家族の中にケアが必要なメンバーがいる場合、 ケアのために自分のことを犠牲にするのは当たり前だ。			
	そう思う	まあまあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わない
小学校 (n=62)	8.1%	45.2%	25.8%	21.0%
中学校・高校 (n=49)	2.0%	38.8%	36.7%	22.4%

② 家族のケアはできる限り家族だけで努力すべきか

「家族のケアが大変な場合でも、だれかに相談したり（サービスを利用したり）助けてもらったりするのは、家族ができる限りがんばってから（努力をしてから）にすべきだ」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生で30.3%と最も高く、中学生、高校生となるにつれ低下した。

教員では、「そう思う」は0.0%、6.1%であった。

図表 79：家族のケアはできる限り家族だけで努力すべきか（児童・生徒）

	家族のケアが大変な場合でも、だれかに相談したり助けてもらったりするのは、家族ができる限りがんばってからのすべきだ。				
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校5年生 (n=297)	30.3%	29.3%	24.2%	13.1%	3.0%
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	23.2%	28.8%	32.8%	13.6%	1.6%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	16.5%	36.9%	38.8%	7.8%	0.0%

図表 80：家族のケアはできる限り家族だけで努力すべきか（教員）

	家族のケアが大変な場合でも、サービスを利用したり誰かに助けてもらったりするのは、家族ができるだけの努力をしてからのすべきだ。			
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校 (n=62)	0.0%	25.8%	46.8%	27.4%
中学校・高校 (n=49)	6.1%	12.2%	34.7%	46.9%

③ 家族のケアの体制に他人はの口出しを控えるべきか

「家族のケアを行っている友だちが大変そうであっても、人の家のことに口出しをするのは良くない（家族のケアの体制については、その家族以外が口出しすべきでない。」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生で35.0%と最も高く、中学生、高校生となるにつれ低下した。

教員では、「そう思う」は3.2%、2.0%であった。

図表 81：家族のケアの体制に他人は口出しを控えるべきか（児童・生徒）

	家族のケアを行っている友だちが大変そうであっても、 人の家のことに口出しをするのは良くない。				
	そう思う	まあまあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答
小学校 5 年生 (n=297)	35.0%	27.6%	23.9%	10.8%	2.7%
中学 2 年生・ 中等教育学校前期課程 2 年生 (n=125)	19.2%	36.0%	36.0%	8.8%	0.0%
中等教育学校後期課程 5 年生 (n=103)	15.5%	39.8%	39.8%	4.9%	0.0%

図表 82：家族のケアの体制に他人は口出しを控えるべきか（教員）

	家族のケアの体制については、その家族以外が口出しをすべきことではない。			
	そう思う	まあまあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わない
小学校 (n=62)	3.2%	16.1%	46.8%	33.9%
中学校・高校 (n=49)	2.0%	16.3%	44.9%	36.7%

④ 女性の方が男性よりケアに向いているか

「女子（女性）の方が男子（男性）よりケアに向いているか」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生で 11.8% と最も高く、中学生、高校生となるにつれ低下した。

教員では、「そう思う」は 2% 以下であった。

図表 83：女子の方が男子よりケアに向いているか（児童・生徒）

	女子の方が男子より、ケアを行うのに向いている。				
	そう思う	まあまあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答
小学校 5 年生 (n=297)	11.8%	16.8%	30.3%	37.4%	3.7%
中学 2 年生・ 中等教育学校前期課程 2 年生 (n=125)	5.6%	26.4%	33.6%	34.4%	0.0%
中等教育学校後期課程 5 年生 (n=103)	4.9%	15.5%	39.8%	39.8%	0.0%

図表 84：女性の方が男性よりケアに向いているか（教員）

	女性の方が男性より、ケアを行うのに向いている。			
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校 (n=62)	1.6%	11.3%	25.8%	61.3%
中学校・高校 (n=49)	2.0%	14.3%	30.6%	53.1%

⑤ 家族のケアを行うことは子ども自身にも良い影響があるか

「女子（女性）の方が男子（男性）よりケアに向いているか」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生で 18.5%と最も高く、中学生、高校生となるにつれ低下した。

教員では、「そう思う」は 2%以下であった。

図表 85：家族のケアを行うことは子ども自身にも良い影響があるか（児童・生徒）

	子どもが家族のケアを行うことは、子ども自身にも良い影響がある。				
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校 5 年生 (n=297)	18.5%	33.7%	26.3%	18.2%	3.4%
中学 2 年生・ 中等教育学校前期課程 2 年生 (n=125)	12.8%	29.6%	40.0%	17.6%	0.0%
中等教育学校後期課程 5 年生 (n=103)	7.8%	27.2%	41.7%	23.3%	0.0%

図表 86：家族のケアを行うことは子ども自身にも良い影響があるか（教員）

	子どもが家族のケアを行うことは、子ども自身にも良い影響がある。			
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校 (n=62)	0.0%	14.5%	54.8%	30.6%
中学校・高校 (n=49)	2.0%	24.5%	46.9%	24.5%

(2) 児童・生徒のみの質問項目

① たとえ大変そうでも家族のケアを行うことはよいことか

「友だちが家族のケアを行っていたら、たとえ大変そうであっても、よいことをしていると思う」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生で41.4%と最も高く、中学生、高校生となるにつれ低下した。

図表 87：たとえ大変そうでも家族のケアを行うことはよいことか

	友だちが家族のケアを行っていたら、たとえ大変そうであっても、よいことをしていると思う。				
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校 5 年生 (n=297)	41.4%	34.0%	14.8%	6.7%	3.0%
中学 2 年生・ 中等教育学校前期課程 2 年生 (n=125)	28.8%	38.4%	26.4%	6.4%	0.0%
中等教育学校後期課程 5 年生 (n=103)	18.4%	51.5%	23.3%	6.8%	0.0%

② 家族のケアが大変そうな友人に大人に助けを求めるよう勧めるか

「家族のケアを行っている友だちが大変そうだったら、誰か他の大人に相談するよう勧めたい」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生、中学生、高校生ともに4割を超えており、「まあまあそう思う」と合わせると8割を超えた。

図表 88：家族のケアが大変そうな友人に大人に助けを求めるよう勧めたいか

	家族のケアを行っている友だちが大変そうだったら、誰か他の大人に相談するよう勧めたい。				
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校 5 年生 (n=297)	40.1%	41.1%	11.1%	4.7%	3.0%
中学 2 年生・ 中等教育学校前期課程 2 年生 (n=125)	53.6%	35.2%	5.6%	5.6%	0.0%
中等教育学校後期課程 5 年生 (n=103)	42.7%	45.6%	10.7%	1.0%	0.0%

③ ケアが必要な家族がいたら周りの人に隠したいか

「自分の家に病気や障がいなどでケアが必要な家族がいたら、周りの人には隠したい」の問いに対して、「そう思う」の回答は、小学生と中学生では約2割、高校生では約1割であり、「まあまあそう思う」と合わせると、いずれも5割前後を占めた。

図表 89：ケアが必要な家族がいたら周りの人に隠したいか

	自分の家に病気や障がいなどでケアが必要な家族がいたら、周りの人には隠したい。				
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校5年生 (n=297)	19.5%	28.3%	33.0%	15.8%	3.4%
中学2年生・ 中等教育学校前期課程2年生 (n=125)	19.2%	33.6%	24.8%	21.6%	0.8%
中等教育学校後期課程5年生 (n=103)	10.7%	37.9%	36.9%	14.6%	0.0%

(3) 教員のための質問項目

① 家族のケアと仕事がきちんと両立できない場合どちらかに専念すべきか

「家族のケアと仕事の両立について、いずれかがおろそかになるようであれば、どちらかに専念すべきだ」の問いに対して、「そう思う」の回答は、3.2%、2.0%と、小学校教員、中学校教員ともに少なかった。

図表 90：家族のケアと仕事がきちんと両立できない場合どちらかに専念すべきか

	家族のケアと仕事の両立について、いずれかがおろそかになるようであれば、どちらかに専念すべきだ。			
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校 (n=62)	3.2%	11.3%	46.8%	38.7%
中学校・高校 (n=49)	2.0%	6.1%	40.8%	51.0%

② 家族のケアは職場に相談することではない

「家族のケアは私的な事柄であるから、職場に相談することではない」の問いに対して、「そう思う」の回答は、0.0%、2.0%と、小学校教員、中学校教員ともに少なかった。

図表 91：家族のケアは職場に相談することではない

	家族のケアは私的な事柄であるから、職場に相談することではない。			
	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校 (n=62)	0.0%	6.5%	41.9%	51.6%
中学校・高校 (n=49)	2.0%	12.2%	26.5%	59.2%

【引用文献】

- 1) 厚生労働省・文部科学省 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（実施主体：日本総合研究所），2022. 3.
URL：https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/2021_13332.pdf（2023年3月12日閲覧）
- 2) 厚生労働省・文部科学省 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（実施主体：日本総合研究所），2021. 3.
URL：https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf（2023年3月12日閲覧）

資料

資料①：調査1【小学生調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（小学生分）】調査項目

資料②：調査2【中学生・高校生調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（中高生分）】調査項目

資料③：調査3【教員調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（教員分）】調査項目

資料④：調査1【小学生調査】依頼書

資料⑤：調査2【中学生・高校生調査】依頼書

資料⑥：調査3【教員調査】依頼書

小学生の生活についてのアンケート調査

★Google フォームにて、調査します。グレーの部分は、セクションで区切る箇所です。

基本情報についてお聞きします。

問1 あなたの性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性
3. その他
4. 答えたくない

問2 あなたと一緒に住んでいるのはだれですか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. お母さん
2. お父さん
3. おばあさん
4. おじいさん
5. 兄・姉
6. 弟・妹
7. その他

→「その他」の場合は、ご入力ください。

問3 あなたの健康状態について教えてください。

1. よい
2. まあよい
3. ふつう
4. あまりよくない
5. よくない

ふだんの生活についてお聞きします。

問4 あなたは学校を欠席したりしますか。

1. ほとんど欠席しない
2. たまに欠席する
3. よく欠席する

問5 あなたは学校を遅刻したり早退したりしますか。

1. ほとんどしない
2. たまにする
3. よくする

問6 放課後、習い事などをしてしていますか。

1. 参加している
2. 参加していない

問7 ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 授業中に寝てしまうことが多い
2. 宿題ができていないことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い
4. 習い事を休むことが多い
5. 提出物を出すのが遅れることが多い
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
7. 保健室で過ごすことが多い
8. 学校では1人で過ごすことが多い
9. 友だちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
10. 特にない

問8 あなたが悩んでいることはありますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 友だちのこと
2. 学校の成績のこと
3. 進路のこと
4. 習い事のこと
5. 家族のこと
6. 生活や勉強に必要なお金のこと
7. 自分のために使える時間が少ない
8. その他
9. 特にない

➡「その他」の場合は、ご入力ください。

資料①：調査1【小学生調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（小学生分）】調査項目

1. ～8. ⇒問9へ分岐、 9. ⇒問10へ分岐

問8で「1. ～8.」のいずれかを選んだ方にお聞きします。

問9 回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

1. いる
2. いない
3. 相談や話しはしたくない

家庭や家族のことについて、全員にお聞きします。

問10 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とはふつう大人が行うような家事や家族の世話などを指します。）

1. いる ⇒問11へ分岐
2. いない ⇒問12へ分岐

問10で「1. いる」と回答した方にお聞きします。

お世話の状況について教えてください。

問11-1 お世話をしている方を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. お母さん
2. お父さん
3. おばあさん
4. おじいさん
5. きょうだい
6. その他

→「その他」の場合は、ご入力ください。

以下は、あなたがお世話をしている方が複数いる場合は、
全員のことをまとめてお答えください。

問11-2 お世話を必要としている人の状況を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 高れい者（65歳以上）
2. 幼い（おさない）
3. 要介護（ようかいご）（介護が必要な状態）
4. 認知症（にんちしょう）
5. 身体しょうがい
6. 知的しょうがい
7. こころの病気（うつ病など）（うたがい含む）
8. 依ぞん症（お酒やギャンブルがやめられず、生活に問題を抱えている）（うたがい含

む)

9. 7、8以外の病気

10. 日本語が苦手

11. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

--

問11-3 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 家事（食事の準備やそうじ、せんたく）

2. きょうだいのお世話や送りむかえ

3. 入浴やトイレのお世話

4. 買い物や散歩にいっしょに行く

5. 病院へいっしょに行く

6. ぐちや話を聞く

7. 見守り

8. 通やく（日本語や手話など）

9. お金の管理

10. 薬の管理

11. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

--

問11-4 あなたは、だれとお世話をしていますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. お母さん
2. お父さん
3. おばあさん
4. おじいさん
5. きょうだい
6. しんせきの人
7. 自分のみ
8. 福祉（ふくし）サービス（ヘルパーなど）を利用
9. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問11-5 あなたは何才からお世話をしていますか。（はっきりとわからない場合は、だいたいの年でかまいません）

 歳から

問11-6 あなたはどれくらいお世話をしていますか。

1. ほぼ毎日
2. 週に3～5日
3. 週に1～2日
4. 1か月に数日
5. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

--

問11-7 あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。

(日によって違う場合は、この1か月で最も長かった日の時間を教えてください)

1日 時間くらい

問11-8 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 学校を休んでしまう
2. ちこくや早退(そうたい)をしてしまう
3. 宿題など勉強する時間がない
4. ねむる時間がたりない
5. 友だちと遊ぶことができない
6. 習い事ができない
7. 進学を希望する中学校を変更せざるを得ない、もしくは変更した
8. 自分の時間が取れない
9. その他()
10. 特になし

➡「その他」の場合は、ご入力ください。

--

問11-9 お世話をすることに大変さを感じていますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 体力の面で大変
2. 気持ちの面で大変
3. 時間の余ゆうがない
4. 特に大変さは感じていない

問 11-10 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについてだれかに相談したことはありますか。

1. ある ⇒問11-11へ分岐
2. ない ⇒問11-12へ分岐

問 11-10 で「1. ある」と回答した方にお聞きします。

問 11-11 相談した相手はだれですか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）
2. しんせき（おじ、おばなど）
3. 友だち
4. 学校の先生（保健室の先生以外）
5. 保健室の先生
6. スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー
7. 病院・医療（いりょう）・福祉（ふくし）サービスの人
8. 近所の人
9. SNS上での知り合い
10. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問11-10で「2. ない」と回答した方にお聞きします。

問11-12 相談していない理由を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. だれかに相談するほどの悩みではないから
2. だれに相談するのがよいかわからないから
3. 相談できる人がいないから
4. 家族のことを話したくないから
5. 相談しても何も変わらないから
6. その他（ ）
 →「その他」の場合は、ご入力ください。

問11-13 学校や周りの大人にしてほしいことはありますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 自分のことについて話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい
3. 家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい
4. 自分が行っているお世話のすべてをだれかに代わってほしい
5. 自分が行っているお世話の一部をだれかに代わってほしい
6. 自由に使える時間がほしい
7. 進路など先のことの相談にのってほしい

8. 勉強を教えてほしい
9. お金の面で支援（しえん）してほしい
10. わからない
11. その他
12. 特にない

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問 11-14 問 11-13 で「1. 自分のことについて話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた方にお聞きします。

どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。

1. 直接会って
2. 電話
3. SNS
4. 電子メール
5. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問 11-15 問 11-13 で「5. 自分が行っているお世話の一部をだれかに代わってほしい」と答えた方にお聞きします。

お世話の中でだれかに代わってほしい部分は、具体的には、どんなお世話、もしくはどんな時ですか。

全員へ、お聞きします。

家族のケアについて、あなたはどのように感じるか教えてください。

ケアとは、家事や家族への世話、ぐちや話を聞くこと、看病（かんびょう）、介護（自分で食事やトイレなどの動作ができない人の手伝い）などをさします。

IV. 家族のケアについて

問 12-1 家族の中にケアが必要な人がいる場合、ケアのために自分のことをがまんするのは当たり前だ。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 12-2 家族のケアが大変な場合でも、だれかに相談したり助けてもらったりするのは、家族ができる限りがんばってからにするべきだ。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 12-3 家族のケアを行っている友だちが大変そうであっても、人の家のことに口出しをするのは良くない。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 12-4 女子の方が男子より、ケアを行うのに向いている。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 12-5 子どもが家族のケアを行うことは、子ども自身にも良いえいきょうがある。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 12-6 友だちが家族のケアを行っていたら、たとえ大変そうであっても、よいことをしていると思う。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問12-7 家族のケアを行っている友だちが大変そうだったら、だれか他の大人に相談するようすすめたい。

1. そう思う
2. まあまあそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

問12-8 自分の家に病気やしょうがいなどでケアが必要な家族がいたら、周りの人にはかくしたい。

1. そう思う
2. まあまあそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

ヤングケアラーについてお聞きします。

ヤングケアラーとは、「本来大人がするような家事や家族の世話などをふだんから行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利（けんり）が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

問13-1 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

問13-2 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問13-3 「ヤングケアラー」のために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由に書いてください。

資料①：調査1【小学生調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（小学生分）】調査項目

質問は以上です。

このアンケート調査は、小学生のふだんの学校や家庭での生活や困りごとなどをお聞きし、
どのような支援(しえん)が必要か考えるために行うものです。

最後に、本アンケートにご協力いただけますか？

1. はい、協力します。

2. いいえ、協力しません。

1. ⇒送信ボタンへ分岐、 2. ⇒送信せずに終了ページへ分岐

ご協力、ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

お時間ありがとうございました。
このままフォームを閉じてください。
回答は送信されません。

資料②：調査2【中学生・高校生調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（中高生分）】調査項目

中高生の生活に関するアンケート調査

★Google フォームにて、調査します。グレーの部分は、セクションで区切る箇所です。

基本情報についてお聞きします。

問1 あなたの学年を教えてください。あてはまるものにチェックをつけてください。

1. 中学2年生・中等教育学校前期課程2年生
2. 中等教育学校後期課程5年生

問2 あなたの性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性
3. その他
4. 答えたくない

問3 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. 兄・姉
6. 弟・妹
7. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問4 あなたの健康状態について教えてください。

1. よい
2. まあよい
3. ふつう
4. あまりよくない
5. よくない

ふだんの生活についてお聞きします。

問5 あなたは学校を欠席したりしますか。

1. ほとんど欠席しない
2. たまに欠席する
3. よく欠席する

問6 あなたは学校を遅刻したり早退したりしますか。

1. ほとんどしない
2. たまにする
3. よくする

問7 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。

1. 参加している
2. 参加していない

問8 ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 授業中に居眠りすることが多い
2. 宿題や課題ができていないことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い
4. 部活動や習い事を休むことが多い
5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
7. 保健室で過ごすことが多い
8. 学校では1人で過ごすことが多い
9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
10. 特にない

問9 現在、悩んでいることはありますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 友人との関係のこと
2. 学業成績のこと
3. 進路のこと
4. 部活動のこと
5. 学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと
6. 塾（通信含む）や習い事ができない
7. 家庭の経済状況のこと
8. 自分と家族との関係のこと
9. 家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）

10. 病気や障がいのある家族のこと

11. 自分のために使える時間が少ない

12. その他

13. 特にない

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

1. ~12. ⇒問10へ分岐、 13. ⇒問11へ分岐

問9で「1. ~12.」のいずれかを選んだ方にお聞きします。

問10 回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

1. いる

2. いない

3. 相談や話しはしたくない

家庭や家族のことについて、全員にお聞きします。

問11 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。）

1. いる ⇒問12へ分岐

2. いない ⇒問13へ分岐

問11で「1. いる」と回答した方にお聞きします。

お世話の状況について教えてください。

問12-1 お世話をしている方を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

以下は、お世話を必要としている方が複数いる場合も、
それぞれの方ごとではなく、まとめてお答えください。

問12-2 お世話を必要としている方の状況を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 高齢（65歳以上）
2. 幼い
3. 要介護（介護が必要な状態）
4. 認知症
5. 身体障がい
6. 知的障がい
7. 精神疾患（疑い含む）
8. 依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）
9. 7、8以外の病気

10. 日本語が苦手

11. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問12-3 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 家事（食事の準備や掃除、洗たく）
2. きょうだいのお世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
7. 見守り
8. 通訳（日本語や手話など）
9. 金銭管理
10. 薬の管理
11. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問 12-4 お世話は誰と行っていますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. 親戚の人
7. 自分のみ
8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
9. その他

➡「その他」の場合は、ご入力ください。

問 12-5 お世話はいつから行っていますか。（はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません）

 歳から

問 12-6 お世話をしている頻度を教えてください。

1. ほぼ毎日
2. 週に3～5日
3. 週に1～2日
4. 1か月に数日
5. その他

問 12-9 お世話をすることにきつさを感じていますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 身体的にきつい
2. 精神的にきつい
3. 時間的余裕がない
4. 特にきつさは感じていない

問 12-10 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

1. ある ⇒問12-11へ分岐
2. ない ⇒問12-12へ分岐

問 12-10 で「1. ある」と回答した方にお聞きします。

問 12-11 相談した相手は誰ですか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）
2. 親戚（おじ、おばなど）
3. 友人
4. 学校の先生（保健室の先生以外）
5. 保健室の先生
6. スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー
7. 医師や看護師、その他病院の人
8. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人

9. 役所や保健センターの人

10. 近所の人

11. SNS上での知り合い

12. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問 12-10 で「2. ない」と回答した方にお聞きします。

問 12-12 相談していない理由を教えてください。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 誰かに相談するほどの悩みではない
2. 家族外の人に相談するような悩みではない
3. 誰に相談するのがよいかわからない
4. 相談できる人が身近にいない
5. 家族のここのため話しにくい
6. 家族のことを知られたくない
7. 家族に対して偏見をもたれたくない
8. 相談しても状況が変わるとは思わない
9. その他（ ）

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

問 12-13 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

資料②：調査2【中学生・高校生調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（中高生分）】調査項目

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談に乗ってほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい
4. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
5. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい
6. 自由に使える時間がほしい
7. 進路や就職など将来の相談に乗ってほしい
8. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
9. 家庭への経済的な支援
10. わからない
11. その他
12. 特にない

→「その他」の場合は、ご入力ください。

問 12-14 問 12-13 で「1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談に乗ってほしい」と答えた方にお聞きします。

どのような方法で話を聞いたり相談に乗ったりしてほしいですか。

1. 直接会って
2. 電話
3. SNS
4. 電子メール
5. その他

→「その他」の場合は、ご入力ください。

問 12-15 問 12-13 で「5. 自分が行っているお世話の一部をだれかに代わってほしい」と答えた方にお聞きします。

お世話の中でだれかに代わってほしい部分は、具体的には、どんなお世話、もしくはどんな時ですか。

全員へ、お聞きします。

家族のケアに対する、あなたの考えを教えてください。
ここでいうケアとは、家事や家族への世話、感情面のサポート、
看病、身体介護などをさします。

問 13-1 家族の中にケアが必要な人がいる場合、ケアのために自分のことを犠牲（ぎせい）にするのは当たり前だ。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 13-2 家族のケアが大変な場合でも、誰かに相談したり助けてもらったりするのは、家族ができる限りの努力をしてからにすべきだ。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 13-3 家族のケアを行っている友だちが大変そうであっても、人の家のことに口出しをするのは良くない。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 13-4 女子の方が男子より、ケアを行うのに向いている。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問13-5 子どもが家族のケアを行うことは、子ども自身にも良い影響がある。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問13-6 友だちが家族のケアを行っていたら、たとえ大変そうであっても、よいことをしていると思う。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問13-7 家族のケアを行っている友だちが大変そうだったら、誰か他の大人に相談するようすすめたい。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問13-8 自分の家に病気や障がいなどでケアが必要な家族がいたら、周りの人にはかくしたい。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

ヤングケアラーについてお聞きします。

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

問14-1 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

問14-2 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問14-3 「ヤングケアラー」への支援を広げていくために必要だと思うことや、要望など何でもご記入ください。

質問は以上です。

このアンケート調査は、中高生の学校や家庭での生活状況の中で抱える
悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、
それらを解決するのに必要な支援策を検討するためのものです。
最後に、本アンケートにご協力いただけますか？

1. はい、協力します。
 2. いいえ、協力しません。
1. ⇒送信ボタンへ分岐、 2. ⇒送信せずに終了ページへ分岐

ご協力、ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

お時間ありがとうございました。
このままフォームを閉じてください。
回答は送信されません。

学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

★Google フォームにて、調査します。グレーの部分は、セクションで区切る箇所です。

基本情報についてお伺いします。

問1 あなたの性別について、お知らせください。

当てはまるものにチェックをつけてください。

1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 答えたくない

問2 あなたが勤務している学校について、お知らせください。

1. 小学校 2. 中学校 3. 中等教育学校(前期) 4. 中等教育学校(後期)

問3 あなたの職種・職位について、お知らせください。

1. 校長 2. 副校長 3. 主幹・指導教諭 4. 主任教諭
5. 教諭 6. 養護教諭(主幹・主任を含む) 7. スクールカウンセラー
8. スクールソーシャルワーカー 9. その他

➡「その他」の場合は、ご入力ください。

ケアを担う子ども「ヤングケアラー」についてお伺いします。
ここでいうケアとは、家事や家族への世話、感情面のサポート、
看病、身体介護などをさします。

問4 今までに「ヤングケアラー」もしくは「ケアを担う子ども」などの言葉を聞いたことがありますか。

1. ある 2. ない

問5 2017年度から現在までに、あなたが関わっている生徒の中で、家族のケアをしているのではないかと感じた生徒はいますか（ケアの期間、内容、程度は問いません）。

1. いた、いる→問6へ分岐
2. いなかった、いない→問8へ分岐
3. わからない→問8へ分岐

問5で「いる」「いた」とお答え頂いた方に、お伺いします。

問6-1 2017年度から現在までに、あなたが関わっている生徒の中で、家族のケアをしているのではないかと感じた生徒は、何人いましたか。

人

問6-2 2017年度から現在までに、家族のケアをしているのではないかと感じた生徒のうち、千代田区立の学校の生徒は、何人いましたか。

人

問6-3 本年度、あなたが関わっている生徒の中で、家族のケアをしているのではないかと感じている生徒は、何人いますか。

人

2017年度から現在までに、あなたが関わった、
家族のケアをしていると思われる子どもについてお伺いします。
複数いらっしゃる場合も、一括してご回答ください。

問7-1 家族のケアをしていると思われる子どもの状況は、下記のうちどれですか（でしたか）。当てはまるものすべてにチェックをつけてください。

1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
2. 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族に代わり、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
5. 家族の通訳をしている
6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている
7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
8. 病気の家族の看病をしている
9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
11. その他

➡「その他」の場合は、ご入力ください。

--

問 7-2 家族の世話をしていると思われる子どもは、学校での生活に以下の影響は出ていますか(いましたか)。当てはまるものすべてにチェックしてください。

1. 遅刻 2. 早退 3. 欠席 4. 忘れ物 5. 宿題をしてこない
6. 学業不振 7. 衛生不良 8. 栄養不良
9. 部活など課外活動ができない
10. 友達やクラスメイトとの関係がおもわしくない
11. 影響はない 12. その他

➡「その他」の場合は、ご入力ください。

問 7-3 子どもが家族のケアをしていることに、どのようにして気づきましたか。

当てはまるものすべてにチェックしてください。

1. 問 7-2（前問）にあるような学校生活への影響が出ていたから
2. 本人から相談を受けたから
3. 本人以外の児童・生徒から相談を受けたから
4. 他の教員から情報提供があったから
5. 学外の機関などから情報提供があったから
6. その他

➡「その他」の場合は、ご入力ください。

問7-4 ヤングケアラーと思われる子どもと関わる上で、困ったことがあれば、ご記入ください。

問7-5 ヤングケアラーと思われる子どもについて、外部の支援につないだケースはありますか。

1. ある 2. ない

➡問7-5で、「ある」とお答え頂いた方に、お伺いします。つないだ外部の支援先を、具体的にご入力ください。

➡問7-5で、「ない」とお答え頂いた方に、お伺いします。外部の支援につながらなかった理由をご入力ください。

全員へ、お伺い致します。

問8 ヤングケアラーを支援する際の課題だと思えるのは、どのようなことですか。

当てはまるものすべてにチェックしてください。

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家庭のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

--

問9 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。

当てはまるものすべてにチェックしてください。

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること

8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること
11. 特になし
12. その他

⇒「その他」の場合は、ご入力ください。

家族のケア一般に対する、あなたのお考えを教えてください。

ここでいうケアとは、家事や家族の世話（子育てを含む）、
感情面のサポート、看病、身体介護などをさします。

問 10-1 家族の中にケアが必要なメンバーがいる場合、ケアのために自分のことを犠牲にするのは当たり前だ。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 10-2 家族のケアが大変な場合でも、サービスを利用したり誰かに助けてもらったりするのは、家族ができるだけの努力をしてからにすべきだ。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 10-3 家族のケアの体制については、その家族以外が口出しをすべきことではない。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 10-4 家族のケアと仕事の両立について、いずれかがおろそかになるようであれば、どちらかに専念すべきだ。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 10-5 家族のケアは私的な事柄であるから、職場に相談することではない。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 10-6 女性の方が男性より、ケアを行うのに向いている。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 10-7 子どもが家族のケアを行うことは、子ども自身にも良い影響がある。

1. そう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

家族に下記の問題がある場合、相談を受けてくれる機関・団体などをご存知ですか。

「知っている」場合は、代表的だと思うものを一つ以上記入してください。

一般名でも特定の機関・団体の名前でも結構です。

問 11-1 障がいや病気のため在宅医療や介護が必要な場合の相談先

1. 知らない 2. 知っている

問 11-2 障がいや病気のため家事の代行が必要な場合の相談先

1. 知らない 2. 知っている

問 11-3 うつ病などの精神疾患がある家族がいる場合の相談先

1. 知らない
2. 知っている

問 11-4 アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族がいる場合の相談先

1. 知らない
2. 知っている

問 11-5 親から十分な世話が受けられない子どもがいる場合の相談先

1. 知らない
2. 知っている

千代田区内の下記の機関について、どの程度ご存知か教えてください。

問 12-1 児童・家庭支援センター

1. 名前も知らない
2. 名前だけは知っている
3. サービス内容も少しだけ知っている
4. サービス内容も知っている

問 12-2 社会福祉協議会

1. 名前も知らない
2. 名前だけは知っている
3. サービス内容も少しだけ知っている
4. サービス内容も知っている

問 12-3 地域包括支援センター「神田・麴町高齢者あんしんセンター」

1. 名前も知らない
2. 名前だけは知っている
3. サービス内容も少しだけ知っている
4. サービス内容も知っている

資料③：調査3【教員調査】調査項目

調査4【ヤングケアラーに関する意識調査（教員分）】調査項目

問 12-4 障害者福祉センター「えみふる」

1. 名前も知らない
2. 名前だけは知っている
3. サービス内容も少しだけ知っている
4. サービス内容も知っている

問 12-5 障害者よろず相談窓口「MOFCA（モフカ）」

1. 名前も知らない
2. 名前だけは知っている
3. サービス内容も少しだけ知っている
4. サービス内容も知っている

その他、ヤングケアラー支援に関するご意見などがあれば、

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

送信ボタンを押してください。

2022年10月14日

千代田区立小学校 御中

「小学生の生活についてのアンケート調査」のご協力をお願い

この度、千代田区立小学校 5 年生を対象に、学校や家庭での生活状況の中で抱える悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な支援策を検討するためのアンケート調査を実施します。より良い支援を検討していくためにも、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。

なお本調査は、共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域が、千代田区より令和 4 年度千代田学の助成を受け、千代田区教育委員会ご協力のもと実施するものであり、集計結果は千代田区に情報提供いたします。

下記の調査の概要とご依頼内容をご覧ください。是非、本調査へのご理解、ご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

【調査の概要とご依頼内容】

- 主な調査項目として、学校や家庭での生活の状況、悩みや困りごと、相談相手の有無、またヤングケアラーへ必要な支援等をお聞きします。
- 本調査は、児童ご自身に回答いただくものです。調査実施前に、保護者あての説明文書の配布をお願いします。
- 所要時間は 15 分程度です。
- 令和 4(2022)年 10 月 31 日(月)までに、ホームルームの時間などを用いて調査実施をお願いします。
- 本調査は、ネット上で回答いただきます。児童あての説明文書に掲載した QR コードを読み取るか、URL を入力させて、回答ページへの案内をお願いします。
- 回答は、児童の自由意思に基づき行うようにしてください。
- 回答は、無記名で行い、結果は、個人の回答が特定できないように統計的に処理します。
- 回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究以外には使用いたしません。
- 結果は、令和 4 年度千代田学報告書として取りまとめる他、学会で公表します。
- 本調査は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施します。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27

E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

研究責任者 教授 田口 理恵

2022年10月14日

千代田区立小学校 5 年生の保護者のみなさま

「小学生の生活についてのアンケート調査」のご協力をお願い

この度、千代田区より助成を受けて、千代田区立小学校 5 年生を対象に、学校や家庭での生活状況の中で抱える悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な支援策を検討するためのアンケート調査を実施します。より良い支援を検討していくためにも、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。

なお本調査は、共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域が、千代田区より令和 4 年度千代田学の助成を受け、千代田区教育委員会ご協力のもと実施するものであり、集計結果は千代田区に情報提供いたします。

下記の調査の概要とご依頼内容をご覧ください、是非お子様の調査へのご協力にご理解をお願いします。

【調査の概要】

- 主な調査項目として、学校や家庭での生活の状況、悩みや困りごと、相談相手の有無、またヤングケアラーへ必要な支援等をお聞きます。
- 所要時間は 15 分程度です。ネット上でご回答いただけます。
- 本調査は、学校でホームルームの時間などに実施し、お子様ご自身に回答いただくものです。
- 回答はお子様の自由意思に基づき行っていただくため、アンケートの中で、調査に協力するかどうか選択することができます。調査に協力しない場合でも、一切の不利益はございません。なお、お子様の回答の有無、回答内容は、学校に報告されません。
- 回答は、無記名で行い、結果は、個人の回答が特定できないように統計的に処理します。
- 回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究以外には使用いたしません。
- 結果は、令和 4 年度千代田学報告書として取りまとめる他、学術学会で公表します。
- 本調査は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施します。

※ヤングケアラーとは

「ヤングケアラー」は、本来大人が担うと想定されている家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子どもを指します。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27
E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp
研究責任者 教授 田口 理恵

「小学生の生活についてのアンケート調査」のご協力のお願い

千代田区立小学校 5 年生のみなさま

- このアンケート調査は、千代田区立小学校 5 年生の全児童を対象としています。
- この調査は、^{しえん}ふだんの学校や家庭での生活の中で抱えている悩みや困りごとなどをお聞きし、どのような^{しえん}支援が必要か考えるために行うものです。
- この調査は、千代田区の助成を受けて、共立女子大学看護学部が行います。
- この調査は学校が行う調査ではなく、回答を学校の先生が見ることもありません。回答は自由です。回答しなくても、成績にえいきょうするなど、あなたに不利益はまったくありません。
- 回答は、無記名で行います。
- 回答いただける場合でも、答えにくい質問は答えなくてもかまいません。
- 結果は報告書として公表しますが、回答を集計して公表するため、あなたの回答が特定されることはありません。
- 回答は無記名のため、一度回答した内容を修正したり、取り消したりすることはできません。
- 結果は、千代田区での小学生への^{しえん}支援方法の検討に活用します。みなさんの回答すべてが参考になるものです。より良い支援を考えていくためにも、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。ぜひ調査へのご協力をお願いします。

【回答にあたってのお願い】

- 右下の QR コードを読み取るか、URL を入力して、回答ページにお入り下さい。
- 回答は、選たくしを選ぶ場合と、具体的な内容を入力する場合があります。選たくしは、1 つだけ選ぶ場合と、当てはまるものをぜんぶ選ぶ場合があります。注意書きをよく読んで回答してください。
- この調査では一時^{ほぞん}保存ができません。調査に協力いただける場合は、最後まで回答して、必ず送信ボタンを押してください。
- 回答は 1 人 1 回限りです。
- 回答にかかる時間は 15 分程度です。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27
E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp
研究責任者 教授 田口 理恵



回答用 URL : <https://forms.gle/☆☆☆>

2022年10月14日

千代田区立中学校・中等教育学校 御中

「中高生の生活実態に関するアンケート調査」のご協力をお願い

この度、千代田区立中学校 2 年生、中等教育学校前期課程 2 年生、並びに中等教育学校後期課程 5 年生を対象に、学校や家庭での生活状況の中で抱える悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な支援策を検討するためのアンケート調査を実施します。より良い支援を検討していくためにも、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。

なお本調査は、共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域が、千代田区より令和 4 年度千代田学の助成を受け、千代田区教育委員会ご協力のもと実施するものであり、集計結果は千代田区に情報提供いたします。

下記の調査の概要とご依頼内容をご覧いただき、是非、本調査へのご理解、ご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

【調査の概要とご依頼内容】

- 主な調査項目として、学校や家庭での生活の状況、悩みや困りごと、相談相手の有無、またヤングケアラーへ必要な支援等をお聞きます。
- 本調査は、生徒ご自身に回答いただくものです。調査実施前に、保護者あての説明文書の配布をお願いします。
- 所要時間は 15 分程度です。
- 令和 4(2022)年 10 月 31 日(月)までに、ホームルームの時間などを用いて調査実施をお願いします。
- 本調査は、ネット上で回答いただきます。生徒あての説明文書に掲載した QR コードを読み取るか、URL を入力させて、回答ページへの案内をお願いします。
- 回答は、生徒の自由意思に基づき行うようにしてください。
- 回答は、無記名で行い、結果は、個人の回答が特定できないように統計的に処理します。
- 回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究以外には使用いたしません。
- 結果は、令和 4 年度千代田学報告書として取りまとめる他、学術学会で公表します。
- 本調査は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施します。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27

E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

研究責任者 教授 田口 理恵

2022年10月14日

千代田区立中学校 2 年生・中等教育学校前期課程 2 年生・
中等教育学校後期課程 5 年生の保護者のみなさま

「中高生の生活実態に関するアンケート調査」のご協力をお願い

この度、千代田区より助成を受けて、千代田区立中学校 2 年生、中等教育学校前期課程 2 年生、並びに中等教育学校後期課程 5 年生を対象に、学校や家庭での生活状況の中で抱える悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な支援策を検討するためのアンケート調査を実施します。より良い支援を検討していくためにも、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。

なお本調査は、共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域が、千代田区より令和 4 年度千代田学の助成を受け、千代田区教育委員会ご協力のもと実施するものであり、集計結果は千代田区に情報提供いたします。

下記の調査の概要とご依頼内容をご覧いただき、是非お子様の調査へのご協力にご理解をお願いします。

【調査の概要】

- 主な調査項目として、学校や家庭での生活の状況、悩みや困りごと、相談相手の有無、またヤングケアラーへ必要な支援等をお聞きます。
- 所要時間は 15 分程度です。ネット上でご回答いただけます。
- 本調査は、学校でホームルームの時間などに実施し、お子様ご自身に回答いただくものです。
- 回答はお子様の自由意思に基づき行っていただくため、アンケートの中で、調査に協力するかどうか選択することができます。調査に協力しない場合でも、一切の不利益はございません。なお、お子様の回答の有無、回答内容は、学校に報告されません。
- 回答は、無記名で行い、結果は、個人の回答が特定できないように統計的に処理します。
- 回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究以外には使用いたしません。
- 結果は、令和 4 年度千代田学報告書として取りまとめる他、学術学会で公表します。
- 本調査は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施します。

※ヤングケアラーとは

「ヤングケアラー」は、本来大人が担うと想定されている家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子どもを指します。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27

E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

研究責任者 教授 田口 理恵

「中高生の生活実態に関するアンケート調査」のご協力のお願い

千代田区立中学校 2 年生・中等教育学校前期課程 2 年生・中等教育学校後期課程 5 年生のみなさま

- このアンケート調査は、千代田区立中学校 2 年生、中等教育学校前期課程 2 年生、並びに中等教育学校後期課程 5 年生の全生徒を対象に、普段の学校や家庭の生活の中で抱えている悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な支援策を検討するために行うものです。
- この調査は、千代田区の助成を受けて、共立女子大学看護学部が実施します。
- この調査は学校が行う調査ではなく、回答を学校の先生が見ることもありません。回答は自由です。回答しなくても、成績に影響するなど、あなたに不利益はまったくありません。
- 回答は、無記名で行います。
- 回答いただける場合でも、答えにくい質問は答えなくても構いません。
- 結果は報告書として公表しますが、回答を集計して公表するため、あなたの回答が特定されることはありません。
- 回答は無記名のため、一度回答した内容を修正したり、取り消したりすることはできません。
- 結果は、千代田区での中高生への支援策の検討に活用します。みなさんの回答すべてが参考になるものです。より良い支援を検討していくためにも、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。ぜひ調査へのご協力をお願いします。

【回答にあたってのお願い】

- 右下の QR コードを読み取るか、URL を入力して、回答ページにお入り下さい。
- 回答は、^{せんたくし}選択肢を選ぶ場合と、具体的な内容を入力する場合があります。^{せんたくし}選択肢は、1 つだけ選ぶ場合と、当てはまるものをぜんぶ選ぶ場合があります。注意書きをよく読んで回答してください。
- この調査では一時保存ができません。調査に協力いただける場合は、最後まで回答して、必ず送信ボタンを押してください。
- 回答は 1 人 1 回限りです。
- 回答にかかる時間は 15 分程度です。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27
E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp
研究責任者 教授 田口 理恵



回答用 URL : <https://forms.gle/☆☆☆>

2022年10月14日

千代田区立小学校・中学校・中等教育学校 御中

「学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査」のご協力をお願い

近年、ヤングケアラーへの支援は、国の政策上の重大な課題となっており、教育・福祉・医療・介護の分野での連携や、積極的な支援の拠点を地域に作っていく必要性が謳われています。このため、千代田区立小学校・中学校・中等教育学校の教員並びにスクールカウンセラーを対象に、学校現場におけるヤングケアラーへの対応の現状と課題などをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な対策を検討するためのアンケート調査を実施します。

なお本調査は、共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域が、千代田区より令和4年度千代田学の助成を受け、千代田区教育委員会ご協力のもと実施するものであり、集計結果は千代田区に情報提供いたします。

下記の調査の概要とご依頼内容をご覧いただき、是非、本調査へのご理解、ご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

【調査の概要とご依頼内容】

- 主な調査項目として、ヤングケアラーへの対応の実態と課題、子育てや介護などのケア一般に関するお考え、ケアに関する相談先の認知等をお聞きします。
- 全教員とスクールカウンセラーの方に、説明文書の配布をお願いします。
- 令和4(2022)年10月31日(月)までにご回答をお願いします。
- 所要時間は15分程度です。
- 本調査は、ネット上でご回答いただきます。教員あての説明文書に掲載したQRコードを読み取るか、URLを入力して、回答ページへアクセスしていただきます。
- 回答は、教員の自由意思に基づき行うようにしてください。
- 回答は、無記名で行い、結果は、個人の回答が特定できないように統計的に処理します。
- 回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究以外には使用いたしません。
- 結果は、令和4年度千代田学報告書として取りまとめる他、学術学会で公表します。
- 本調査は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施します。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27

E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

研究責任者 教授 田口 理恵

2022年10月14日

千代田区立小学校・中学校・中等教育学校
教員・スクールカウンセラー 各位

「学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査」のご協力をお願い

この度、千代田区立小学校・中学校・中等教育学校の教員並びにスクールカウンセラーの方を対象に、学校現場におけるヤングケアラーへの対応の現状と課題などをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な対策を検討するためのアンケート調査を実施します。ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、皆様の貴重なご意見を承りたく、何卒、本調査へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

なお本調査は、共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域が、千代田区より令和4年度千代田学の助成を受け、千代田区教育委員会ご協力のもと実施するものであり、集計結果は千代田区に情報提供いたします。

【調査の概要】

- 主な調査項目として、ヤングケアラーへの対応の実態と課題、子育てや介護などのケア一般に関するお考え、ケアに関する相談先の認知等をお聞きします。
- 所要時間は15分程度です。ネット上でご回答いただきます。
- 調査に協力するかは、あなたの自由意思に基づいて判断してください。調査協力の有無による利益・不利益はありません。アンケートへの回答をもって、ご同意いただいたと判断させていただきます。
- 回答は、無記名で行い、結果は、個人の回答が特定できないように統計的に処理します。
- 回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究以外には使用いたしません。
- 結果は、令和4年度千代田学報告書として取りまとめる他、学術学会で公表します。
- 本調査は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施します。

【回答方法等】

- 右下のQRコードを読み取るか、URLを入力して、回答ページにお入り下さい。
- 回答は、選択肢を選ぶ場合と、具体的な内容を入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従って回答してください。
- この調査では一時保存ができません。最後まで回答して、必ず送信ボタンを押してください。
- 回答は1人1回限りです。
- 令和4(2022)年10月31日(月)までにご回答ください。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-27
E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp
研究責任者 教授 田口 理恵



回答用 URL: <https://forms.gle/☆☆☆>

2022年10月14日

千代田区立小学校・中学校・中等教育学校
スクールソーシャルワーカー 各位

「学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査」のご協力をお願い

この度、千代田区立小学校・中学校・中等教育学校の教員を対象に、学校現場におけるヤングケアラーへの対応の現状と課題などをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な対策を検討するためのアンケート調査を実施します。ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、皆様の貴重なご意見を承りたく、何卒、本調査へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

なお本調査は、共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域が、千代田区より令和4年度千代田学の助成を受け、千代田区教育委員会ご協力のもと実施するものであり、集計結果は千代田区に情報提供いたします。

【調査の概要】

- 主な調査項目として、ヤングケアラーへの対応の実態と課題、子育てや介護などのケア一般に関するお考え、ケアに関する相談先の認知等をお聞きします。
- 所要時間は15分程度です。ネット上でご回答いただけます。
- 調査に協力するかは、あなたの自由意思に基づいて判断してください。調査協力の有無による利益・不利益はありません。アンケートへの回答をもって、ご同意いただいたと判断させていただきます。
- 回答は、無記名で行い、結果は、個人の回答が特定できないように統計的に処理します。
- 回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究以外には使用いたしません。
- 結果は、令和4年度千代田学報告書として取りまとめる他、学術学会で公表します。
- 本調査は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施します。

【回答方法等】

- 右下のQRコードを読み取るか、URLを入力して、回答ページにお入り下さい。
- 回答は、選択肢を選ぶ場合と、具体的な内容を入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従って回答してください。
- この調査では一時保存ができません。最後まで回答して、必ず送信ボタンを押してください。
- 回答は1人1回限りです。
- 令和4(2022)年10月31日(月)までにご回答ください。

本調査に関するお問い合わせ先

共立女子大学 看護学部 地域在宅看護学領域
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-27
E-mail: kwu.chn.gr@kyoritsu-wu.ac.jp
研究責任者 教授 田口 理恵



令和4年度 千代田学報告書

千代田区における教育医療福祉の連携にもとづくヤングケアラー支援体制構築に向けた実態調査

編集 共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域

発行所 共立女子大学看護学部地域在宅看護学領域

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27

発行日 2023年3月31日

印刷所 株式会社 ビーワイエス

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-23-2

UBG 東池袋ビル 4階
